

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段：英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		オーラルコミュニケーションⅠ（ベーシック） English Oral Communication Ⅰ (Basic)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	文部科学省は以前、『『英語が使える日本人』育成のための戦略構想』を提示しました。それを受けて、仕事で英語が使える人材を育成する観点から各大学は達成目標を設定することを求められています。日本を取り巻く国際環境は急速なグローバル化を見せており、日本国内のことだけを考えていればよかった時代はすでに過去となっています。日本企業の多くが海外進出を行っている現在、グローバル化に対応する大学教育は最優先事項となっています。英語教育に関して、文部科学省は社会人になった時に使える英語を学生に教えるように要求しています。つまり、ビジネス英語を学生に習得させることを第一の目標にすることを強く求めていると言えるでしょう。本演習は基本的な英語の知識を確認することから学修を始めます。中学校で学修した英語、全般の知識をしっかりと見つめなおします。英語を理解するときに、知識として固まっている部分、まだまだ、知識として固まっていない部分を取り出してゆくことを目的とします。これからの英語学修で自分には何が足りていないかに気づいてください。その気づきから英語を学ぶべき方向性がはっきりと見えてくるはずです。焦る必要はありません。弱点があるとすれば、その改善に徹してください。							
キーワード	・グローバル時代の英語 ・英語を使う時の「外向き」姿勢	学修教育目標	今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われています。学生には社会人基礎力で言う、「一歩前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。本演習では文化・生活習慣・マナーの異なる人々と「内向き」志向ではなく積極的に英語を話し、聞くことにより、意思の疎通ができるようになることを学修教育目標とする。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
英語は世界の共通語として、コミュニケーションの手段としての役割をますます高めています。グローバル化が加速する実社会で生活していく上で、英語は身に付けておきたいと思う言語ですね。授業では、話す・聞くのコミュニケーション力を向上させるための教材を選びました。授業で真剣に演習に取り組めば、必ず、向上します。ただし、毎日、英語の練習を実行することが条件になります。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「役立つ英語(基礎)」・「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと、学修してください。「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な英文法の知識が基礎となります。英検 4 級にチャレンジしてみたいかがでしょう。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
My TGU.net の授業資料に教材を掲示しています。				書 名：英文法をこわす 感覚による再構築 著者名：大西 泰斗 出版社：NHK出版新書				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		小学校高学年で義務化された英語の授業でも支障なく教えることができる。 ○					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性						
		② 働きかけ力						
		③ 実行力		基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。 ○				
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力						
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。 ○				
		② 傾聴力		基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。 ○				
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。 ○				

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ◯:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ◯:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			41		59					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価				59					59
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		41							41
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
ネイティブとビジネスについての英会話ができる。					ネイティブと一般的な英会話ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	テーマ：Verbs	講義・演習	学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 2 回 ／	テーマ：Verb phrases	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 3 回 ／	テーマ：Irregular Verbs	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 4 回 ／	テーマ：Questions and negatives	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 5 回 ／	テーマ：Short forms	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 6 回 ／	テーマ：Present tense	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 7 回 ／	テーマ：Present simple	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 8 回 ／	テーマ：Present continuous	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 9 回 ／	テーマ：Present perfect	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 10 回 ／	テーマ：Past tense	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 11 回 ／	テーマ：Perfect aspect	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 12 回 ／	テーマ：Continuous aspect	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 13 回 ／	テーマ：Modal verbs	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 14 回 ／	テーマ：to-infinitives	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 15 回 ／	学期末試験対策	学期末試験の模擬試験演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段：英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		オーラルコミュニケーションⅠ（スタンダード） English Oral Communication Ⅰ (Standard)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	文部科学省は以前、『英語が使える日本人』育成のための戦略構想』を提示しました。それを受けて、仕事で英語が使える人材を育成する観点から各大学は達成目標を設定することを求められています。日本を取り巻く国際環境は急速なグローバル化を見せており、日本国内のことだけを考えていればよかった時代はすでに過去となっています。日本企業の多くが海外進出を行っている現在、グローバル化に対応する大学教育は最優先事項となっています。英語教育に関して、文部科学省は社会人になった時に使える英語を学生に教えるように要求しています。つまり、ビジネス英語を学生に習得させることを第一の目標にすることを強く求めていると言えるでしょう。本演習は基本的な英語の知識を確認することから学修を始めます。中学校で学修した英語、全般の知識をしっかりと見つめなおします。英語を理解するときに、知識として固まっている部分、まだまだ、知識として固まっていない部分を取り出してゆくことを目的とします。これからの英語学修で自分には何が足りていないかに気づいてください。その気づきから英語を学ぶべき方向性をはっきりと見えてくるはずです。焦る必要はありません。弱点があるとすれば、その改善に徹してください。							
	キーワード	・グローバル時代の英語 ・英語を使う時の「外向き」姿勢	学修教育目標	今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われています。学生には社会人基礎力で言う、「一歩前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。本演習では文化・生活習慣・マナーの異なる人々と「内向き」志向ではなく積極的に英語を話し、聞くことにより、意思の疎通ができるようになることを学修教育目標とする。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
英語は世界の共通語として、コミュニケーションの手段としての役割をますます高めています。グローバル化が加速する実社会で生活していく上で、英語は身に付けておきたいと思う言語ですね。授業では、話す・聞くのコミュニケーション力を向上させるための教材を選びました。授業で真剣に演習に取り組めば、必ず、向上します。ただし、毎日、英語の練習を実行することが条件になります。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「役立つ英語(基礎)」・「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと、学修してください。英語を「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な文法の知識が基礎となります。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
My TGU.net の授業資料に教材を掲示しています。				書 名：英文法をこわす 感覚による再構築 著者名：大西 泰斗 出版社：NHK出版新書				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		小学校高学年で義務化された英語の授業でも支障なく教えることができる。○					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性						
		② 働きかけ力						
		③ 実行力		基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。○				
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力						
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。○				
		② 傾聴力		基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。○				
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。○				

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される
 ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される
 △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く
 ○:通常の状況で発揮する力が身に付く
 △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			41		59					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価				59					59
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		41							41
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英語でプレゼンテーションができる。英語の質問に英語で答えることができる。					ネイティブとビジネスについての英会話ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	テーマ：Verbs	講義・演習	学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 2 回 ／	テーマ：Verb phrases	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 3 回 ／	テーマ：Irregular Verbs	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 4 回 ／	テーマ：Questions and negatives	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 5 回 ／	テーマ：Short forms	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 6 回 ／	テーマ：Present tense	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 7 回 ／	テーマ：Present simple	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 8 回 ／	テーマ：Present continuous	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 9 回 ／	テーマ：Present perfect	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 10 回 ／	テーマ：Past tense	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 11 回 ／	テーマ：Perfect aspect	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 12 回 ／	テーマ：Continuous aspect	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 13 回 ／	テーマ：Modal verbs	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 14 回 ／	テーマ：to-infinitives	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60
第 15 回 ／	学期末試験対策	学期末試験の模擬試験演習	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段：英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		オーラルコミュニケーションⅠ（アドバンス） English Oral Communication Ⅰ (Advanced)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	これまで関心がなかった英語、特に英語でのコミュニケーションが学生の未来を開く一つの武器となることを理解する。またその目標までの道筋を紐解きながら、実際にネイティブスピーカーとの英語でのコミュニケーションを大切にしていく。 コミュニケーションとはただ文法を学ぶことではなく、単語を教えることでもなく、実際に学生が「英語を勉強してみよう」と感じる意識改革あってこそ成り立つもの。まずは学生との距離を一步一步縮め、学生の将来と向き合いながら授業に取り組む。							
	授業内では指定教材を軸に、聞いたことを繰り返す授業や書かれたものを読む授業ではなく、より実戦的に使用できる文法から習得していける様に進める。基礎文法ができる様になれば日記等の課題をこなし、また学生との授業内外でのコミュニケーションを大切にしながら基礎文法を春学期中にマスターすることで、秋学期へのステップへつなげる。							
キーワード	教員と生徒として、そして学生の将来を一緒に考えられる先輩としてのあり方	学修教育目標	基礎文法の習得 ・現在形 ・過去形 ・未来形 コミュニケーションへの抵抗をなくす 自分についての簡単な質問（趣味など）を理解して回答する					
授業科目の概要及び学修上の助言								
〔概要〕 文章を作成する上で必要な公式を頭に入れ、実際に自分の状況を説明する文章を作成。例えば過去形の文章なら「I had a meeting last night」の様に過去形で作成する。公式を理解し、作文ができる様になったら実際に口に出してみること。ペアーで、そしてグループでの会話を担当教員が巡回しながら確認。 〔学修上の助言〕 間違うことを恐れず、どんどん間違っ覚えていくものだとして理解すること。そして間違ってもいい環境をクラス内で作ることがスピーキング力向上の鍵。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
なし								
教 科 書			参考書・リザーブブック					
書 名：Roadmap A2+ 著者名：Lindsay Warwick、Damian Williams 出版社：Pearson Education Limited			ケンブリッジ出版社「Grammar In Use」 ピアソン出版社「Focus On Grammar」					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		日常的な英語でのコミュニケーションが可能になる。○					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		基礎のビジネス英語が出来て、将来の仕事に応用できるようになる。○					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	自分自身の意見を持つこと。◎					
		② 働きかけ力	自分の意見を言語化する。◎					
		③ 実行力	自分自身の意見を発言し、他と共有する。◎					
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	得意不得意を理解し、不得意な箇所のトレーニング。△					
		② 計画力	計画的に課題に触れることにより自身の知識を広げる。△					
		③ 創造力	学んだ知識と共に1年後、3年後をイメージした日々を過ごす。○					
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	集団の中でも臆することなく自分自身の考えを発信すること。○					
		② 傾聴力	チーム内のメンバーとのコミュニケーションを相互通行にし、お互いを理解し合う。○					
		③ 柔軟性	予期しない問題や課題に直面した際、考え、一つ一つに対応する。△					
		④ 状況把握力	言葉で伝わる情報と自分が感じる情報を読み取り、自分自身が置かれている環境を理解し、素早く問題の解決に取り組む。△					
		⑤ 規律性	チーム内のメンバーで決めたルールを尊重し、そのルールに沿ってチームで課題に取り組む。△					
		⑥ ストレスコントロール力	他の間違いを手助けし、共に間違いがあっても助け合いながら学んでいくチーム作り。△					
4. 倫理観		① 倫理性	それぞれの倫理観の違いを理解することが国際的な倫理観を養う。◎					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
		総合評価割合		41	36		23			
評価の指標	知識に関する評価		31	36		5				72
	技能に関する評価		10			5				15
	応用力に関する評価					5				5
	チームワーク力に関する評価					3				3
	関心・意欲に関する評価					5				5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学んだ基礎文法を使って簡単な英会話が出来ることを大きな目標とし、スピーキングの前に簡単な文章の作成が可能となること。 冠詞等の細かいミスには今学期は触れず、基本的な構文を理解すること。「主語＋動詞」など。					コミュニケーションには難しいというイメージを持っている学生は多いが、標準的なレベルでクリアすべきは簡単な英文が書けること。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	Lesson 1: オリエンテーション	授業の方法、使用テキストの紹介と英語がもたらす将来の可能性について 14 週目の発表グループについての説明	●復習 グループで将来の夢の仕事（ドリームジョブ）を英語で調べる	90
第 2 回 ／	Lesson 2: Getting to know you Roadmap A2+: P6、P7 ＜文法＞一般動詞、現在形	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト1：基礎の英単語	●予習 Roadmap A2+: P6、P7 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P6、P7 からの課題	90
第 3 回 ／	Lesson 3: Successful people Roadmap A2+: P8、P9 ＜文法＞ 頻度を表す副詞 肯定・否定・疑問文	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト2：第 2 回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P8、P9 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P8、P9 からの課題	90
第 4 回 ／	Lesson 4: A new lifestyle Roadmap A2+: P10、P11 ＜文法＞ 現在形と現在進行形の違い	授業の目標とゴールを設定。文法説明と英語で変える将来について ●小テスト3：第 3 回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P10、P11 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P10、P11 からの課題	90
第 5 回 ／	Lesson 5: One of those days Roadmap A2+: P14、P15 ＜文法＞過去形	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト4：第 4 回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P14、P15 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P14、P15 からの課題	90
第 6 回 ／	Lesson 6 : You’ re never too old Roadmap A2+: P16、P17 ＜文法＞過去形の否定文、疑問文	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト5：第 5 回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P16、P17 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P16、P17 からの課題	90
第 7 回 ／	Lesson 7 : Unusual tastes Roadmap A2+: P18、P19 ＜文法＞可算名詞・不可算名詞	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト6：第 6 回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P16、P17 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P16、P17 からの課題	90
第 8 回 ／	Lesson 8 : Urban escapes Roadmap A2+: P22、P23 ＜文法＞比較級	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト7：第 7 回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P22、P23 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P22、P23 からの課題	90
第 9 回 ／	Lesson 9 : A place to stay Roadmap A2+: P24、P25 ＜文法＞最大級	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト8：第 8 回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P24、P25 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P24、P25 からの課題	90
第 10 回 ／	Lesson 10 : Never ever Roadmap A2+: P26、P27 ＜文法＞現在完了	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト9：第 9 回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P26、P27 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P26、P27 からの課題	90
第 11 回 ／	Lesson 11 : Special days Roadmap A2+: P30、P31 ＜文法＞未来形 「be going to」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト10：第 10 回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P30、P31 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P30、P31 からの課題	90
第 12 回 ／	Lesson 12 : Planning events Roadmap A2+: P32、P33 ＜文法＞未来形 「will」	文法説明、グループワーク後に特別アクティビティーと日本人教員との時間 ●小テスト11：第 11 回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P32、P33 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P32、P33 からの課題	90
第 13 回 ／	Lesson 13 : Rules of the race Roadmap A2+: P34、P35 ＜文法＞助動詞 「can」 「have to」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト12：第 12 回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P34、P35 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P34、P35 からの課題	90
第 14 回 ／	Lesson 14 : 発表	●グループ発表 1 グループ：10 分（Q&A を含め） テーマ：Our dreams	●発表	90
第 15 回 ／	Lesson 15 : 復習 ＜テスト対策＞	次週開催のテストの対策と質疑応答。	●復習	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとにに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段：英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		オーラルコミュニケーションⅡ（ベーシック） English Oral Communication Ⅱ (Basic)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学 修 教 育 目 的	オーラルコミュニケーションⅠで提示した学修教育目的を基礎とし、その目的をさらに強化していきたいと考えています。2013 年 12 月、文部科学省は「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を公表しました。将来の新たな英語教育に向けた計画です。この計画ではグローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要であるとしています。 本演習では、オーラルコミュニケーションⅠでの演習を通して、英語を理解するときに自分に不足していた知識をよく確認した上で、それらの知識を土台にして、応用・発展的に英語を理解しようとする姿勢を育むことを目的とする。							
	キ ー ワ ー ド	・ グローバル時代の英語 ・ 英語を使う時の「外向き」姿勢	学 修 教 育 目 標	今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われています。学生には社会人基礎力で言う、「一歩前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。オーラルコミュニケーションⅠで培った英語を使う時の「外向き」の姿勢、すなわち英語使用への積極的な気持ちをさらに大きく持って、秋学期は平易な英語を使って自分の考え、意見をしっかりと発表できることを学修教育目標とする。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
英語は世界の共通語として、コミュニケーションの手段としての役割をますます高めています。グローバル化が加速する実社会で生活していく上で、英語は身に付けておきたいと思う言語ですね。授業では、話す・聞くのコミュニケーション力を向上させるための教材を選びました。授業で真剣に演習に取り組めば、必ず、向上します。ただし、毎日、英語の練習を実行することが条件になります。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「役立つ英語(基礎)」・「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと、学修してください。「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な英文法の知識が基礎となります。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
My TGU.net の授業資料に教材を掲示しています。				書 名：英文法をこわす 感覚による再構築 著者名：大西 泰斗 出版社：NHK出版新書				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		小学校高学年で義務化された英語の授業でも支障なく教えることができる。 ○					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性						
		② 働きかけ力						
		③ 実行力	基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。 ○					
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。 ○					
		② 傾聴力	基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。 ○					
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	アメリカの生活習慣、文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。 ○					

※1 ㊟授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ㊿授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ㊟:効果的に発揮できる力が身に付く ㊿:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			41		59					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価				59					59
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		41							41
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英語を使用した会議に参加して、意見を述べることができる。					ネイティブとビジネスについての英会話ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	テーマ：Adjectives and prepositions	講義・演習	学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 2 回 ／	テーマ：Comparative adjectives	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 3 回 ／	テーマ：Infinitive of purpose	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 4 回 ／	テーマ：Present simple "have got"	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 5 回 ／	テーマ：Using "There is"、 "There are"	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 6 回 ／	テーマ：Determines and quantifiers	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 7 回 ／	テーマ：Possessives	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 8 回 ／	テーマ：Adverbials	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 9 回 ／	テーマ：Checking understanding	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 10 回 ／	テーマ：Making suggestions	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 11 回 ／	テーマ：Meeting new people	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 12 回 ／	テーマ：Conditionals	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 13 回 ／	テーマ：Future continuous	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 14 回 ／	テーマ：British English and American English	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 15 回 ／	学期末試験対策演習	学期末試験の模擬試験演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段：英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		オーラルコミュニケーションⅡ（スタンダード） English Oral Communication Ⅱ (Standard)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	オーラルコミュニケーションⅠで提示した学修教育目的を基礎とし、その目的をさらに強化していきたいと考えています。2013 年 12 月、文部科学省は「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を公表しました。将来の新たな英語教育に向けた計画です。この計画ではグローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要であるとしています。 本演習では、オーラルコミュニケーションⅠでの演習を通して、英語を理解するときに自分に不足していた知識をよく確認した上で、それらの知識を土台にして、応用・発展的に英語を理解しようとする姿勢を育むことを目的とする。							
	キーワード	・グローバル時代の英語 ・英語を使う時の「外向き」姿勢	学修教育目標	今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われています。学生には社会人基礎力で言う、「一步前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。オーラルコミュニケーションⅠで培った英語を使う時の「外向き」の姿勢、すなわち英語使用への積極的な気持ちをさらに大きく持って、秋学期は平易な英語を使って自分の考え、意見をしっかりと発表できることを学修教育目標とする。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
英語は世界の共通語として、コミュニケーションの手段としての役割をますます高めています。グローバル化が加速する実社会で生活していく上で、英語は身に付けておきたいと思う言語ですね。授業では、話す・聞くのコミュニケーション力を向上させるための教材を選びました。授業で真剣に演習に取り組めば、必ず、向上します。ただし、毎日、英語の練習を実行することが条件になります。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「役立つ英語(基礎)」・「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと、学修してください。英語を「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な文法の知識が基礎となります。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
My TGU.net の授業資料に教材を掲示しています。				書 名：英文法をこわす 感覚による再構築 著者名：大西 泰斗 出版社：NHK出版新書				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		小学校高学年で義務化された英語の授業でも支障なく教えることができる。 ○					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性						
		② 働きかけ力						
		③ 実行力		基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。 ○				
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力						
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。 ○				
		② 傾聴力		基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。 ○				
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		アメリカの生活習慣、文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。 ○				

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
 ※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			41		59					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価				59					59
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		41							41
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英語で討論会を開き、積極的に受け答えをすることができる。					英語でプレゼンテーションができる。英語の質問に英語で答えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	テーマ：Adjectives and prepositions	講義・演習	学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 2 回 ／	テーマ：Comparative adjectives	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 3 回 ／	テーマ：Infinitive of purpose	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 4 回 ／	テーマ：Present simple "have got"	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 5 回 ／	テーマ：Using "There is"、 "There are"	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 6 回 ／	テーマ：Determines and quantifiers	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 7 回 ／	テーマ：Possessives	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 8 回 ／	テーマ：Adverbials	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 9 回 ／	テーマ：Checking understanding	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 10 回 ／	テーマ：Making suggestions	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 11 回 ／	テーマ：Meeting new people	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 12 回 ／	テーマ：Conditionals	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 13 回 ／	テーマ：Future continuous	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 14 回 ／	テーマ：British English and American English	講義・演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60
第 15 回 ／	学期末試験対策演習	学期末試験の模擬試験演習	前回、学修した内容について、それに関する発展的な演習問題を解く。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段：英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		オーラルコミュニケーションⅡ（アドバンス） English Oral Communication Ⅱ (Advanced)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	春学期で学んだ基礎文法、基礎英単語をより実践で使える様にトレーニングを行う。頭にある英語が口から出てくるまでの道のりをいかに短縮するか、また英会話で大切な「推測する」という能力についても養うことを目指す。聞き取れなかった単語も会話の中から推測、イメージすることでコミュニケーションにギャップをもたらさない。またカジュアルなシチュエーションでの簡単な会話がクラス内でも頻繁に起きることをゴール設定し、英語＝難しいというイメージを完全に取り払うことを学期目標とする。							
	知識の面ではこれまでの文法からさらにステップアップし、長文読解や徐々にアカデミックな学習を取り入れていく。短文なら理解できるが長文になると解けないという状況を事前に把握し、ゆっくり慣れていく。							
キーワード	徐々にアカデミックな学習も取り入れることで学生が自信を持って発言できるレベルに	学修教育目標	基礎文法の習得 コミュニケーション能力のブラッシュアップ（個人のショートプレゼンの練習・実施） 長文読解 スピーキングのテクニック ・接続詞 ・起承転結					
授業科目の概要及び学修上の助言								
〔概要〕 文法通りに英作する時間、そして文法は一旦考えず、レスポンススピードに意識を置いた授業を取り入れる。秋学期では実際に「話せる自信」を獲得することに着目。 〔学修上の助言〕 「間違うことを恐れず」から「会話のスピードを意識する」という目標に切り替えることが自然なコミュニケーションへの第一歩。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
なし								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：Roadmap A2+ 著者名：Lindsay Warwick、Damian Williams 出版社：Pearson Education Limited				ケンブリッジ出版社「Grammar In Use」 ピアソン出版社「Focus On Grammar」				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		日常的な英語でのコミュニケーションが可能になる。○					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		基礎のビジネス英語が出来て、将来の仕事に応用できるようになる。○					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	自分自身の意見を持つこと。◎					
		② 働きかけ力	自分の意見を言語化する。◎					
		③ 実行力	自分自身の意見を発言し、他と共有する。◎					
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	得意不得意を理解し、不得意な箇所のトレーニング。△					
		② 計画力	計画的に課題に触れることにより自身の知識を広げる。○					
		③ 創造力	学んだ知識と共に1年後、3年後をイメージした日々を過ごす。◎					
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	集団の中でも臆することなく自分自身の考えを発信すること。◎					
		② 傾聴力	チーム内のメンバーとのコミュニケーションを相互通行にし、お互いを理解し合う。○					
		③ 柔軟性	予期しない問題や課題に直面した際、考え、一つ一つに対応する。○					
		④ 状況把握力	言葉で伝わる情報と自分が感じる情報を読み取り、自分自身が置かれている環境を理解し、素早く問題の解決に取り組む。△					
		⑤ 規律性	チーム内のメンバーで決めたルールを尊重し、そのルールに沿ってチームで課題に取り組む。○					
		⑥ ストレスコントロール力	他の間違いを手助けし、共に間違いがあっても助け合いながら学んでいくチーム作り。△					
4. 倫理観		① 倫理性	それぞれの倫理観の違いを理解することが国際的な倫理観を養う。△					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41	36		23				100
評価の指標	知識に関する評価		31	36		5				72
	技能に関する評価		10			5				15
	応用力に関する評価					5				5
	チームワーク力に関する評価					3				3
	関心・意欲に関する評価					5				5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
春学期との違いは「アカデミックな学習の取り入れ」。またこれまで学んだ基礎文法を使ってスピーキングに取り組み、小さな自信を全学生が持てる様に指導。 英語は間違っ て覚えるもの。正しく話すことの前に発言すること。これがオーラルコミュニケーションと英語検定テストの違いであり、気軽に「Hi、 how' re you? Are you alright?」などの言葉が口から出ることが目標。					簡単な文章で構成された日記を完成させ、さらに少しずつ口から英語を発し始めることが大切な目標。考えながらの英語のコミュニケーションでも現状は良し。その一歩目から次のステップに必要な自信を学生と作り上げていく。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	Lesson 16: オリエンテーション	英語を使っての未来と学生の可能性について 14 週目の発表グループについての説明	●復習 春学期に学習した文法・単語の復習	90
第 2 回 ／	Lesson 17: Appearances Roadmap A2+: P40、P41 ＜文法＞形容詞	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト1：第1回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P40、P41 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P40、P41 からの課題	90
第 3 回 ／	Lesson 18: Shopping tips Roadmap A2+: P42、P43 ＜文法＞ 助動詞「should」「shouldn't」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト2：第2回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P42、P43 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P42、P43 からの課題	90
第 4 回 ／	Lesson 19: A busy week Roadmap A2+: P48、P49 ＜文法＞ 未来形「be going to」「will」「plan to」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト3：第3回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P48、P49 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P48、P49 からの課題	90
第 5 回 ／	Lesson 20: A quiet weekend Roadmap A2+: P50、P51 ＜文法＞助動詞「might」「might not」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト4：第4回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P50、P51 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P50、P51 からの課題	90
第 6 回 ／	Lesson 21: The building project Roadmap A2+: P54、P55 ＜文法＞「too」「enough」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト5：第5回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P54、P55 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P54、P55 からの課題	90
第 7 回 ／	Lesson 22: Where I grew up Roadmap A2+: P56、P57 ＜文法＞「used to」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト6：第6回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P56、P57 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P56、P57 からの課題	90
第 8 回 ／	Lesson 23: A favorite room Roadmap A2+: P58、P59 ＜文法＞前置詞と冠詞	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト7：第7回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P58、P59 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P58、P59 からの課題	90
第 9 回 ／	Lesson 24: Getting around Roadmap A2+: P64、P65 ＜文法＞接続詞「because」「so」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト8：第8回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P64、P65 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P64、P65 からの課題	90
第 10 回 ／	Lesson 25: Dream holidays Roadmap A2+: P66、P67 ＜文法＞動名詞と不定詞	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト9：第9回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P66、P67 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P66、P67 からの課題	90
第 11 回 ／	Lesson 26: Good friends Roadmap A2+: P70、P71 ＜文法＞現在完了形 継続	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト10：第10回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P70、P71 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P70、P71 からの課題	90
第 12 回 ／	Lesson 27: What's on? Roadmap A2+: P72、P73 ＜文法＞現在完了形 完了	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト11：第11回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P72、P73 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P72、P73 からの課題	90
第 13 回 ／	Lesson 28 : School days Roadmap A2+: P74、P75 ＜文法＞ could、 couldn't	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト12：第12回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P74、P75 の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P74、P75 からの課題	90
第 14 回 ／	Lesson 29：発表	●グループ発表 1 グループ：10 分（Q&A を含め） テーマ：My hometown	●発表	90
第 15 回 ／	Lesson 30：復習 ＜テスト対策＞	次週開催のテストの対策と質疑応答。	●復習	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段：英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		役立つ英語（基礎） English Language（Basic Class）		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	グローバル化が進む現代社会では、ビジネス、学業を問わず、あらゆる場面で、英語力が必要とされ「役立つ英語」の学習は必須です。TOEIC® L&R は、現在、世界 160 か国で実施されている国際コミュニケーション英語能力を検定するための試験です。多くの企業では社員の採用時や入社後の海外赴任者選抜、昇進基準の指標として TOEIC®スコアを活用し、また、大学では入学試験や英語カリキュラムにおける単位認定、日々の英語学習の自己啓発として利用しているところもあります。本授業は、TOEIC® L&R の問題演習を通して、英語の基礎的なコミュニケーション能力を身に着け、日常生活やビジネスシーン、様々な文化や言語背景を持つ人々と効果的にコミュニケーションと取り自信を持てるようにすることを目標とし、具体的に、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの各スキルを向上させ、基本的な英語の知識とスキルを習得することを目的とします。							
	キーワード	英文読解のルール 英語コミュニケーション 異文化 就職試験 英語能力検査対策	学修教育目標	1. リスニング能力の向上：日常会話やビジネスシーンでの英語会話を理解し、重要な情報を抽出できるようになることを目指す。 2. リーディング能力の向上：簡単な英文を読み取り、主要なポイントや情報を理解できるようになることを目指す。 3. ライティング能力の向上：基本的な文法ルールと表現方法を習得し、簡単な文書やメッセージを書く能力を向上させることを目指す。 4. スピーキング能力の向上：簡単なトピックについて自分の意見を述べたり、簡単な質問に答えたりする能力を向上させることを目指す。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
各ユニットを学習することにより、問題のパターンに慣れる。自分で辞書を引いて単語（同意語、反意語）、熟語を覚え、春学期実施の「知って得する英語（応用）」につなげていく。各自、英語辞書を必ず持参し、自分で単語を引き、その都度覚えていくこと。または電子辞書を持参してください。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「知って得する英語（応用）」につながる。 知らない単語、熟語は確実に覚えていくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
書 名：An Amazing Avenue For The TOEIC® L&R Test 400 著者名：Hiromi Hagi、 Adelia Falk 他 出版社：成美堂				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		全ての判断の基礎は基礎知識にある。英語においても就職試験対策は土台である英単語にあるので、確実に覚えて長文を解くための判断力へとつなげること。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	わからない単語は自分から辞書を引き覚える。					
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	単語の意味を知らなくても、同一性を見つける方法を考える。					
		② 計画力	TOEIC®、英検などの試験のために計画をたて、実行努力していく。					
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される
 ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される
 △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く
 ○:通常の状況で発揮する力が身に付く
 △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合		45	40					15
評 価 の 指 標	知識に関する評価		45	30						75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価			10					15	25
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学習した単語、熟語だけでなく、関連する単語、熟語にまで幅を広げ、覚えている。 TOEIC® 400 点を取得できる。					学習した単語、熟語の意味がわかる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション	学生主体による演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
第 2 回 ／	Unit 1 Restaurants	学生による演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 3 回 ／	Unit 2 Daily Life	学生による演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 4 回 ／	Unit 3 Campus Life	学生による演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 5 回 ／	Unit 4 Shopping	学生による演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 6 回 ／	Unit 5 Entertainment	学生による演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 7 回 ／	Unit 6 Office Work (1)	学生による演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 8 回 ／	Unit 7 Office Work (2)	学生による演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 9 回 ／	Unit 8 Bank & Post Office	学生による演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 10 回 ／	Unit 9 Job Hunting	学生による演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 11 回 ／	Unit 10 Housing	学生による演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 12 回 ／	Unit 11 Transportation	学生による演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 13 回 ／	Unit 12 Hotels	学生による演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 14 回 ／	Unit 13 Events	学生による演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 15 回 ／	Unit 14 Health	学生による演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	復習 30
	授業への取り組み・小テスト			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		役立つ英語（基礎） English Language（Basic Class）		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	公務員・教員採用一般教養英語試験対策として、まず初めに、採用試験に要求される英語の基本的な事項を確認する。基本レベルの確認作業を通じて、各受講生が今現在、どの程度の英語力を身につけているかを自覚することにより英語力を改善するために努力することを目的とする。							
	キーワード 日常で使える英語表現		学修教育目標	各受講生が現時点での英語力について自覚することにより、英語の学習面において自分の弱点を十分に認識し、最終的にはその弱点を完全に、克服することを目標とする。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
“communication”であるとか“business”などといった既に日本語としても機能する英語表現は日常にあふれている。だから受講生はできるだけ英語というものに苦手意識を持たずに取り組んでいただきたい。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「オーラルコミュニケーションⅠ」の理解につながる。公務員・教員採用試験についての情報はインターネット上で、かなり豊富に入手できるので活用する習慣をつけておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
書 名：『We love L.A.！／L.A. イングリッシュ・ライフ』 著者名：Robert Hickling／臼倉美里 出版社：金星堂				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		教員採用試験に要求される英語の基本的な事項を確認する。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		個々人で作成した英作文を発表することで他者の気持ちなどを類推する。					○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		学科に根ざした英語表現等を確認することでより自己の語彙力を拡張する。					◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		正確な英文作成能力を身につけることで創造性・あきらめず考え抜く力を得る。					◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		学生間でのグループワーク・ペアワークなどを通じてより正確な英語表現とは何かを考察する能力を身につける。					○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		⑤で考察してきた英語表現等をさらに応用して発信力と状況把握力を身に付ける。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	採用試験に向けて自ら情報を収集し、自発的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力	採用試験に合格するという強い意志を持って試験対策に取り組むことができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	採用試験の現状を理解し、合格に向けて努力することができる。					◎
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	35	15					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		30	20	5					55
	技能に関する評価		10	15	5					30
	応用力に関する評価		10		5					15
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各受講生が現時点での英語力について自覚することにより、英語の学習面において自分の弱点を十分に認識する。 公務員・教員採用一般教養英語試験対策として十分に通用するものになることである。					ビジネスの場面でも教養試験・資格試験などでも頻繁に使用されるのは、日常的な表現である。このクラスでは、テスト問題をやりながら、英語が苦手だった人も楽しく学びながら、身の回りの表現ができるようになる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	Unit1 Welcome to L.A. / Be 動詞（１）	Be 動詞を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく	90
	Be 動詞の活用の違いを把握する			
第 2 回 ／	Unit1 Welcome to L.A. / Be 動詞（２）	Be 動詞を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく	90
	Be 動詞の活用の違いを把握する			
第 3 回 ／	Unit2 I love fruits / 可算名詞・不可算名詞（１）	★ 小テスト１（Be 動詞） 可算名詞・不可算名詞の違いを解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく	90
	可算名詞・不可算名詞の違いを把握する			
第 4 回 ／	Unit2 I love fruits /可算名詞・不可算名詞（２）	可算名詞・不可算名詞の違いを解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく	90
	可算名詞・不可算名詞の違いを把握する			
第 5 回 ／	Unit3 Campus Life / 一般動詞（現在時制）（１）	★ 小テスト２（可算・不可算名詞） 一般動詞（現在時制）を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく	90
	一般動詞（現在時制）の活用の把握			
第 6 回 ／	Unit3 Campus Life / 一般動詞（現在時制）（２）	一般動詞（現在時制）を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく	90
	一般動詞（現在時制）の活用の把握			
第 7 回 ／	Unit 4 Lunchtime / 代名詞（１）	★ 小テスト３（現在時制） 代名詞を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく	90
	代名詞のある文を的確に解釈することができる			
第 8 回 ／	Unit 4 Lunchtime /代名詞（２）	代名詞を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく	90
	代名詞のある文を的確に解釈することができる			
第 9 回 ／	Unit 5 First Date / 一般動詞（過去時制）（１）	★ 小テスト４（代名詞） 一般動詞（過去時制）を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく	90
	一般動詞（過去時制）の活用の把握			
第 10 回 ／	Unit 5 First Date / 一般動詞（過去時制）（２）	一般動詞（過去時制）を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく	90
	一般動詞（過去時制）の活用の把握			
第 11 回 ／	Unit 6 Where’s Linda? / 進行形の構文（１）	★ 小テスト５（過去時制） 進行形の構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく	90
	進行形の構文を的確に使用できる			
第 12 回 ／	Unit 6 Where’s Linda? /進行形の構文（２）	進行形の構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく	90
	進行形の構文を的確に使用できる			
第 13 回 ／	Unit 7 Andy’s News / 未来の表現（１）	★ 小テスト６（進行形） 未来の表現の構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく	90
	未来の表現の構文を的確に使用できる			
第 14 回 ／	Unit 7 Andy’s News / 未来の表現（２）	未来の表現の構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく	90
	未来の表現の構文を的確に使用できる			
第 15 回 ／	Unit 8 Shopping in Santa Monica / 助動詞	★ 小テスト７（未来の表現） 助動詞を使った構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく	90
	助動詞を使った表現の構文を的確に使用できる			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段・英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		知って得する英語（応用） English Language（Advanced Class）		1 単位	選択必修	演 習	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	「役立つ英語基礎」で学んだ英語の基礎的な知識を土台に、その目的をさらに強化する。本授業では、社会における様々な問題の内容のものを英語で読みながら、語彙力、読解力、文法力を確実に身につけることを目的とする。また、TOEIC® L&R 、英語検定の対策を基礎として、実際の模擬試験問題に取り組むことによって、企業の採用試験対策を行うことを目的とする。							
キーワード	英文読解のルール 英語コミュニケーション 異文化 模擬試験問題 採用試験対策	学修教育目標	1. リスニング能力の向上：日常会話やビジネスシーンでの英語会話を理解し、重要な情報を抽出できるようになることを目指す。 2. リーディング能力の向上：簡単な英文を読み取り、主要なポイントや情報を理解できるようになることを目指す。 3. ライティング能力の向上：基本的な文法ルールと表現方法を習得し、簡単な文書やメッセージを書く能力を向上させることを目指す。 4. スピーキング能力の向上：簡単なトピックについて自分の意見を述べたり、簡単な質問に答えたりする能力を向上させることを目指す。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
自分で英語辞書（英和・和英）を引いて、単語、熟語を覚え、文法を理解し、長文の読み取りに慣れていく。 1に努力、2に努力である。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「役立つ英語（基礎）」の続きである。基礎で学習したことを土台にし、応用していくことが求められる。								
教 科 書			参考書・リザーブブック					
書 名：Key Strategies For Success On The Toeic L&R Test Level 400 著者名：Atsuko Nishitani、 Keiichi Ito 他 出版社：朝日出版社			なし					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		暗記した一つの意味にとらわれず、その意味を理解し拡大解釈へとつなげていく力を身につける。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		わからないことは自分で調べ、誰かに相談し、答えを導く。 ◎				
		② 働きかけ力		①に同じ。 ◎				
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		何が問われているのか、何を調べればわかるのかを判断できる。 ◎				
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合		45	40					15
評 価 の 指 標	知識に関する評価		45	40						85
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価								15	15
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学習した単語、熟語だけでなく、関連する単語、熟語にまで幅を広げ、覚えている。 TOEIC® 500 点を取得できる。					単語の持つ意味を理解し、その意味を拡大解釈できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション、 授業（空所補充- 熟語編）	学生主体による演習を基本として、 授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に 目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を 必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
第 2 回 ／	Unit L&R-1 人物が写っている写真 / 品詞（名詞・形容詞）	学生主体による演習を基本として、 授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に 目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を 必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 3 回 ／	Unit L&R-2 人物が写っていない写真 / 品詞（動詞・副詞）	学生主体による演習を基本として、 授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に 目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を 必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 4 回 ／	Unit L&R-3 疑問詞で始まる疑問文/代名詞・動詞の形:受動態 vs 能動態	学生主体による演習を基本として、 授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に 目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を 必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 5 回 ／	Unit L&R-4 機能別疑問文 / 動詞の形：時制・その他	学生主体による演習を基本として、 授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に 目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を 必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 6 回 ／	Unit L&R-5 選択疑問文 Yes/No 疑問文 / 前置詞・接続詞	学生主体による演習を基本として、 授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に 目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を 必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 7 回 ／	Unit L&R-6 総合演習 / 長文穴埋め問題	学生主体による演習を基本として、 授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に 目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を 必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 8 回 ／	Unit L&R-7 全体問題・詳細問題の区別 / 広告	学生主体による演習を基本として、 授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に 目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を 必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 9 回 ／	Unit L&R-8 職業・提案・次の行動 / チャット・Eメール(1)	学生主体による演習を基本として、 授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に 目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を 必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 10 回 ／	Unit L&R-9 トピック・目的・依頼 / Eメール(2)	学生主体による演習を基本として、 授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に 目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を 必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 11 回 ／	Unit L&R-10 録音メッセージ・広告 / 手紙	学生主体による演習を基本として、 授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に 目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を 必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 12 回 ／	Unit L&R-11 アナウンス・トーク・ニュース / 告知・社内回覧	学生主体による演習を基本として、 授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に 目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を 必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 13 回 ／	Unit L-12 グラフィック（図表）問題 /	学生主体による演習を基本として、 授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に 目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を 必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 14 回 ／	Unit L&R-13 Review	学生主体による演習を基本として、 授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に 目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を 必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			
第 15 回 ／	Unit L&R-14 Review	学生主体による演習を基本として、 授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に 目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を 必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・小テスト			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		知って得する英語（応用） English Language（Advanced Class）		1 単位	選択必修	演 習	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	公務員・教員採用一般教養英語試験対策として、役立つ英語(基礎)で学修した内容を基盤にし、さらに、応用レベルの確認作業を行うことにより、採用試験に対応できる学力を身に付けることを目的とする。							
	キーワード	日常英語の応用	学修教育目標	英語の基礎と応用レベルの問題を解くことにより、採用試験の合格水準の英語力に到達できることを目標とする。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
“communication”であるとか“business”などといった既に日本語としても機能する英語表現は日常にあふれている。だから受講生はでこれまで学んできた日常英語を応用することで、自己表現能力を培う喜びを感じていただきたい。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「オーラルコミュニケーション II」の理解につながる。公務員・教員採用試験に関する最新の情報をインターネット上から入手し、採用試験を取り巻く環境について詳しく、調べておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：『We love L.A.！／L.A. イングリッシュ・ライフ』 著者名：Robert Hickling／臼倉美里 出版社：金星堂				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		教員採用試験に要求される英語の基本的な事項を確認する。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		個々人で作成した英作文を発表することで他者の気持ちなどを類推する。					○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		学科に根ざした英語表現等を確認することでより自己の語彙力を拡張する。					◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		正確な英文作成能力を身につけることで創造性・あきらめず考え抜く力を得る。					◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		学生間でのグループワーク・ペアワークなどを通じてより正確な英語表現とは何かを考察する能力を身につける。					○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		⑤で考察してきた英語表現等をさらに応用して発信力と状況把握力を身に付ける。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	採用試験に向けて自ら情報を収集し、自発的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力	採用試験に合格するという強い意志を持って試験対策に取り組むことができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	採用試験の現状を理解し、合格に向けて努力することができる。					◎
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	35	15					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		30	20	5					55
	技能に関する評価		10	15	5					30
	応用力に関する評価		10		5					15
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各受講生が現時点での英語力について自覚することにより、英語の学習面において自分の弱点を十分に認識する。 公務員・教員採用一般教養英語試験対策として十分に通用するものになることである。					ビジネスの場面でも教養試験・資格試験などでも頻繁に使用されるのは、日常的な表現である。このクラスでは、テスト問題をやりながら、英語が苦手だった人も楽しく学びながら、身の回りの表現ができるようになる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	Unit 8 Shopping in Santa Monica / 助動詞	助動詞を使った構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく。	90
	助動詞を使った表現の構文を的確に使用できる			
第 2 回 ／	Unit 9 Moving Day / 前置詞（1）	前置詞を使った構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく。	90
	前置詞の意図の違いを把握する			
第 3 回 ／	Unit 9 Moving Day / 前置詞（2）	前置詞を使った構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく。	90
	前置詞の意図の違いを把握する			
第 4 回 ／	Unit 10 A Beautiful View / 現在完了（1）	★ 小テスト1：前置詞 現在完了を使った構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく。	90
	現在完了の意味を把握できる			
第 5 回 ／	Unit 10 A Beautiful View / 現在完了（2）	現在完了を使った構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく。	90
	現在完了の意味を把握できる			
第 6 回 ／	Unit11 Sunday Fun / 比較（1）	★ 小テスト2：現在完了 比較構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく。	90
	比較構文を把握できる			
第 7 回 ／	Unit11 Sunday Fun / 比較（2）	比較構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく。	90
	比較構文を把握できる			
第 8 回 ／	Unit 12 Seeing Stars / WH 疑問文（1）	★ 小テスト3：比較構文 WH 疑問文の構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく。	90
	WH 疑問文を的確に解釈できる			
第 9 回 ／	Unit 12 Seeing Stars / WH 疑問文（2）	WH 疑問文の構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく。	90
	H 疑問文を的確に解釈できる			
第 10 回 ／	Unit13 Buying Food for a BBQ / 動名詞・不定詞（1）	★ 小テスト4：WH 疑問文・助動詞 動名詞と不定詞を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく。	90
	動名詞を的確に解釈できる			
第 11 回 ／	Unit13 Buying Food for a BBQ / 動名詞・不定詞（2）	動名詞と不定詞を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく。	90
	不定詞を的確に解釈できる			
第 12 回 ／	Unit14 Putting on a New Face / 接続詞（1）	★ 小テスト5：動名詞・不定詞 接続詞を使った構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく。	90
	接続詞を的確に使用できる			
第 13 回 ／	Unit14 Putting on a New Face / 接続詞（2）	接続詞を使った構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく。	90
	接続詞を的確に使用できる			
第 14 回 ／	Unit 15 Nice Surprise / 受動態（1）	★ 小テスト6：接続詞 受動態を使った構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく。	90
	受動態を的確に使用できる			
第 15 回 ／	Unit 15 Nice Surprise / 受動態（2）	★ 小テスト7：受動態 受動態を使った構文を解説し、例題にて理解度を確認する。	・テキスト該当部分の未知の単語・表現を調べておく。 ・授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にしておく。	90
	受動態を的確に使用できる			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		役立つ韓国語（入門） Korean Language（Basic Class）		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	韓国語は日本語と文法構造が大変似ているので日本語を母国語にしている人にとって学びやすい言語の一つである。 最初はハングル文字の発声方法から始め韓国語の音や文に慣れる練習を行う。 それから簡単な会話のやり取りを覚えることに重点をおいて演習を進めていく。								
	キーワード ハングル文字の仕組み 音読・訓読 文法・基本会話	学修教育目標 役に立つ韓国語入門終了後には、ハングル検定5級に合格することを目標としている。							
授業科目の概要及び学修上の助言									
韓国語の仕組みや文法は日本語と非常に似ているので二つの言葉の類似点を比較しながら学習しましょう。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
特になし。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名：韓国語 授業ノート 著者名：周相勲 出版社：周相勲				なし					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。								
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		異文化に対する理解を深めることでグローバル社会において活躍の場所を世界に広める。						
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		新しい言葉を学習する、ということで自ら積極的に取り組むことが出来る。					◎
		② 働きかけ力							
		③ 実行力							
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		日本語と韓国語との類似点や相違点を比較しながら学習を進めることが出来る。					◎
		② 計画力		韓国語の仕組み、文字の意味、発音の形態、文法の形成など、段階的な学習を通して学修対象に対する計画力を高めることが出来る。					○
		③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力							
		② 傾聴力							
		③ 柔軟性		新たなる知識の習得に対する姿勢を学ぶことが出来る。					◎
		④ 状況把握力							
		⑤ 規律性							
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性		異国の言葉を学び異国の文化や価値観を理解することで他者との共存・共生の価値観の涵養ができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	30		20				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		50	10						60
	技能に関する評価			10						10
	応用力に関する評価			10						10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価					20				20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
韓国語の仕組みや発音、文法などをしっかり理解し基礎会話ができることを望む。					韓国語の仕組みや発音、文法などをしっかり理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	現代韓国や韓国語について 韓国語と日本語の類似点	基本あいさつを覚えること	予習：40 分、復習：40 分	80
	基本あいさつ表現確認チェック			
第 2 回 ／	ハングルの基本母音と基本子音 1	基本母音と基本子音の組合せ 1	予習：40 分、復習：40 分	80
	基本母音の形と発音チェック			
第 3 回 ／	ハングルの基本母音と基本子音 2	基本母音と基本子音の組合せ 2	予習：40 分、復習：40 分	80
	基本子音の形と発音チェック			
第 4 回 ／	合成母音	合成母音の形と発音を覚える	予習：40 分、復習：40 分	80
	合成母音を組み合わせた単語を覚える。			
第 5 回 ／	激音の発音	濃音、激音、平音の比較練習	予習：40 分、復習：40 分	80
	濃音、激音のある単語の読みチェック			
第 6 回 ／	パッチム（終声の仕組み）	パッチムの読み方と発音を覚える	予習：40 分、復習：40 分	80
	パッチムのある単語の読み方チェック 小テスト			
第 7 回 ／	～です/～ですか	主格助詞「은/는」の機能を学習	予習：40 分、復習：40 分	80
第 8 回 ／	自己紹介	自己紹介文を覚える	予習：40 分、復習：40 分	80
第 9 回 ／	日常生活	-아요/ 어요 表現を学習	予習：40 分、復習：40 分	80
第 10 回 ／	物と位置	主格助詞「이/가」の機能を学習	予習：40 分、復習：40 分	80
第 11 回 ／	ショッピング 1	主格助詞「을/를」の機能を学習 漢数詞を覚える	予習：40 分、復習：40 分	80
	漢数詞			
第 12 回 ／	ショッピング 2	「이、그、저、어느」指示代名詞の活用 固有数詞を覚える	予習：40 分、復習：40 分	80
	固有数詞			
第 13 回 ／	一日の日課	過去形の表現を学習	予習：40 分、復習：40 分	80
	過去形			
第 14 回 ／	私の一日の日課	文章の読む練習	予習：40 分、復習：40 分	80
第 15 回 ／	全体のまとめ 練習問題をチェック	全体的なまとめとレベルチェック	予習：40 分、復習：40 分	80

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		知って得する韓国語（応用） Korean Language（Advanced Class）		1 単位	選択必修	演 習	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学 修 教 育 目 的	日本は歴史的にも地理的にも韓国と密接な関係を持っている。 この授業では役に立つ韓国語Ⅰに引き続き、文法の基礎をしっかりと身につけながら会話の演習を行い、 一番近い国である韓国の文化や言葉を理解することを目指していく。							
	キーワード 挨拶 自己紹介 作文	学 修 教 育 目 標	役に立つ韓国語応用終了後には、ハングル検定4級に合格することを目標としている。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
韓国語の仕組みや文法は日本語と非常に似ているので二つの言葉の類似点を比較しながら学習しましょう。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
特になし。								
教 科 書				参 考 書 ・ リ ザ ー ブ ド ブ ッ ク				
書 名：韓国語 授業ノート 著者名：周相勲 出版社：周相勲				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 （※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		異文化に対する理解を深めることでグローバル社会において活躍の場所を世界に広める。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 （※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		新しい言葉を学習する、ということで自ら積極的に取り組むことが出来る。				◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		日本語と韓国語との類似点や相違点を比較しながら学習を進めることが出来る。				◎
		② 計画力		韓国語の仕組み、文法の形成、会話、作文など、段階的な学習を通して学修対象に対する計画力を高めることが出来る。				○
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性		新たなる知識の習得し会話ができる姿勢を学ぶことが出来る。				◎
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		異国の言葉を学び異国の文化や価値観を理解することで他者との共存・共生の価値観の涵養ができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	30		20				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		50	10						60
	技能に関する評価			10						10
	応用力に関する評価			10						10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価					20				20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
読み書きに支障のないレベルまでに達し簡単な会話のできる韓国語能力検定試験 4 級水準まで進める。					読み書きがしっかりできて簡単な会話ができるレベルまで進む。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	天気	否定文 接続詞 -그리고	予習：40 分、復習：40 分	80
第 2 回 ／	時間	～時～分	予習：40 分、復習：40 分	80
第 3 回 ／	約束	-아요/-어요/-해요	予習：40 分、復習：40 分	80
第 4 回 ／	～しましょうか	-(으) ㄴ가요?	予習：40 分、復習：40 分	80
第 5 回 ／	週末	接続詞 - 그래서	予習：40 分、復習：40 分	80
第 6 回 ／	家族	-있어요/ -없어요	予習：40 分、復習：40 分	80
第 7 回 ／	私の家族	文章の読む練習	予習：40 分、復習：40 分	80
第 8 回 ／	韓国語の勉強	～どうですか (-어때요?)	予習：40 分、復習：40 分	80
	小テスト			
第 9 回 ／	我が家	-해요? / -해요.	予習：40 分、復習：40 分	80
第 10 回 ／	交通	交通関連の単語学習	予習：40 分、復習：40 分	80
第 11 回 ／	～から～まで	～から～まで （-에서 -까지） の表現を学習	予習：40 分、復習：40 分	80
	～で			
第 12 回 ／	健康	～大丈夫ですか	予習：40 分、復習：40 分	80
第 13 回 ／	食べ物	～が好きです	予習：40 分、復習：40 分	80
第 14 回 ／	キムチ	～したいです	予習：40 分、復習：40 分	80
第 15 回 ／	まとめと小テスト	全体的なまとめとレベルチェック	予習：40 分、復習：40 分	80

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		役立つ中国語（入門） Chinese Language (Basic Class)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学 修 教 育 目 的	中国語と日本語は言語的に異質的なものである。このような視点から、教科内容の学習を通して、言葉だけではなく、中国の文化的背景を理解することによって、実用面のみならず、教養面にも役立てることができるようになる。							
	キ ー ワ ー ド 発音 文法 会話	学 修 教 育 目 標	「聞く、話す、読む、書く、訳す」という基本から中国語の特有の発音を身につけ、基本的な文型の学習によって、会話をできるようになる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
二回の授業につき、一課の内容を進む。 内容範囲：文法のポイント、文型の応用、会話分に現れた中国の文化的背景など。 1）一回分の新しい内容の量が多いので、学習した内容をよく復習して理解すること 2）問題点が蓄積しないように授業中に質問がある場合、随時に質問すること								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
なし								
教 科 書				参 考 書 ・ リ ザ ー ブ ド ブ ッ ク				
書 名：学ぶ中国語 楽しく身につく初級トレーニング 著者名：王亜新・劉素英 出版社：朝日出版社				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 （※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		中国語の基礎力を養成する。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 （※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		予習、演習などに主体的に取り組むことができる。				○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		分かること、分からないことを明確にして、演習に取り組むことができる。				○
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		口頭や文章でパフォーマンスすることができる。				◎
		② 傾聴力		丁寧に他者の発言を聴いて、理解することができる。				○
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	20		10			20	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		10	5		2			4	21
	技能に関する評価		15	5		2			4	26
	応用力に関する評価		15	5		4			5	29
	チームワークに関する評価		5	2					2	9
	関心・意欲に関する評価		5	3		2			5	15
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が８０％以上である。					各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が６０％～８０％である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	第 1 回 中国の概況、挨拶言葉 発音①四声 ②単母音 ③子音 ④複合母音	口頭で発音の説明と練習をする	発音と挨拶用語を復習する	中国について の紹介 20 発音練習 50 挨拶用語 20
第 2 回 ／	第一課 本文の読み方と意味説明 判断の表し方（名詞文の基礎） 自己紹介の学習	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 3 回 ／	第一課 名詞文の表現と練習	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 4 回 ／	第二課 本文の読み方と意味説明 存在文と所有文の表現	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 5 回 ／	第二課 疑問詞疑問文の表現と練習	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 6 回 ／	筆記テスト①（第一課～第二課） 口頭試験（自己紹介）①	第 1 課と第 2 課を復習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 7 回 ／	第三課 本文の読み方と意味説明 動詞文の表現 曜日の言い方	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 8 回 ／	第三課 前置詞「在」 連動文の表現と練習	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 9 回 ／	第四課 本文の読み方と意味説明 形容詞文の表現 反復疑問文	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 10 回 ／	第四課 本文の読み方と意味説明 主述述語文 数量詞の表現と練習	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 11 回 ／	筆記テスト②（第三課～第四課）	第 3 課と第 4 課を復習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

授 業 計 画 表				
学修内容（上段）・授業内評価（下段）		授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 12 回 ／	第五課 本文の読み方と意味説明 動詞文の肯定の表現 並列の表現 存在場所を表す表現	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 13 回 ／	第五課 動詞文の否定の表現 活動場所を表す表現 追加の意味を表す表現	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 14 回 ／	第六課 本文の読み方と意味説明 所有を表す表現 存在を表す表現	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 15 回 ／	第六課 予定、計画を表す表現 因果関係を表す表現 練習問題をする	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		知って得する中国語（応用） Chinese Language (Advanced Class)		1 単位	選択必修	演 習	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	中国語と日本語は言語的に異質的なものである。このような視点から、教科内容の学習を通して、言葉だけではなく、中国の文化的背景を理解することによって、実用面のみならず、教養面にも役立ててことを目指す。							
	発音 文法 会話	学修教育目標	「聞く、話す、読む、書く、訳す」という基本から中国語の特有の発音を身につけ、基本的な文型の学習によって、会話を習得する。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
二回の授業につき、一課の内容を進む。 内容範囲：文法のポイント、文型の応用、会話分に現れた中国の文化的背景など。 1）一回分の新しい内容の量が多いので、学習した内容をよく復習して理解すること 2）問題点が蓄積しないように授業中に質問がある場合、随時に質問すること								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
なし								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：学ぶ中国語 楽しく身につく初級トレーニング 著者名：王亜新・劉素英 出版社：朝日出版社				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		中国語の基礎力を養成する。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	予習、演習などに主体的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	分かること、分からないことを明確にして、演習に取り組むことができる。					○
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	口頭や文章でパフォーマンスすることができる。					◎
		② 傾聴力	丁寧に他者の発言を聴いて、理解することができる。					○
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20		10			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	5		2			4	21
	技能に関する評価		15	5		2			4	26
	応用力に関する評価		15	5		4			5	29
	チームワークに関する評価		5	2					2	9
	関心・意欲に関する評価		5	3		2			5	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が８０％以上である。					各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が６０％～８０％である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	第 7 課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 前置詞を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 2 回 ／	第 7 課 ④ 連動文の表現を習う ⑤ 練習問題をする	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 3 回 ／	第 8 課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 二重目的語表現を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 4 回 ／	第 8 課 ④ 前置詞「給」を習う ⑤ 助動詞「要」と疑問詞を習う ⑥ 第 8 課の練習問題をする	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 5 回 ／	筆記試験① 内容範囲：第 7 課と第 8 課 口頭試験①	第 7 課と第 8 課と口頭試験内容を練習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 6 回 ／	第 9 課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 状態補語の表現を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 7 回 ／	第 9 課 ④ 比較文「比」と「没有」を習う ⑤ 助動詞「会」を習う ⑥ 練習問題をする	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 8 回 ／	第 1 0 課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 進行形の表現を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 9 回 ／	第 1 0 課 ④ 結果補語を習う ⑤ 助動詞「应该」を習う ⑥ 練習問題をする	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 10 回 ／	筆記試験② 内容範囲：第 9 課と第 1 0 課	第 9 課と第 1 0 課を復習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 11 回 ／	第 1 1 課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 文型などの表現を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 12 回 ／	第 1 1 課 ④ 「是…的」構文を習う ⑤ 練習問題をする	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 13 回 ／	第 1 2 課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 変化の「了」を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 14 回 ／	第 1 2 課 ④ 副詞の表現を習う ⑤ 「一点儿」と「有点儿」を習う	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 15 回 ／	第 1 2 課 ⑥練習問題をする 復習、口頭試験の練習まとめ	8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） 9) 第 1 1 課と第 1 2 課と口頭試験内容を復習する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー		ソフトウェアリテラシー I（ベーシック） Software Literacy I (Basic)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	この授業では文書作成ソフト、「Microsoft Word」の使い方を学修する。学生は、コンピュータの基本操作と入力に慣れ、Word の基本的な機能を活用して文書作成ができるようになることを目的とする。							
キーワード	Word 文書の作成	学修教育目標	学生は、コンピュータの基本操作と入力に慣れ、日常よく使用する文書やレポート類を自分の力で作成できるようになることが目標である。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
Word の基本操作である文字の入力、文字の編集、文書の編集、文書の印刷、文書の作成、表を使った文書の作成、図形や画像を使った文書の作成を学修する。また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。Type Quick による入力練習に時間をかけることが望まれる。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「サーティファイ Word 文書処理技能認定試験」、「マイクロソフトオフィススペシャリスト（Word）」を取得するための関連科目になっている。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：Word 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		Word の基本的な操作技能を身につける。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。					◎
		③ 実行力	課題を完成させることができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。					○
		③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45				45		10	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		30				10			40
	技能に関する評価		10				10		5	25
	応用力に関する評価		5				5			10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価						20		5	25
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Word の基本操作ができ、文字の入力に抵抗がない。					テキストを参考にしながらコンピュータの基本操作と Word の基本操作ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション（授業の進め方、TGU.net） コンピュータの基本操作	講義、演習	復習：授業内容の振り返り	30
	課題			
第 2 回 ／	コンピュータの基本操作 タイプクイック導入 Word の基本（第 1 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの登録 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 3 回 ／	タイプクイック練習 Word の基本（第 1 章） 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 4 回 ／	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章） タイプクイック	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 5 回 ／	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 6 回 ／	タイプクイック練習 文書の編集（第 3 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 7 回 ／	タイプクイック練習 文書の印刷（第 4 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 8 回 ／	タイプクイック練習 文書の作成（第 5 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 9 回 ／	タイプクイック練習 文書の作成（第 5 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 10 回 ／	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第 6 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 11 回 ／	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第 6 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 12 回 ／	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 13 回 ／	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 14 回 ／	タイプクイック検定 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 15 回 ／	総合学習問題の解説と練習 ブレースメントテスト	講義、演習	復習：学期末テストに向けて	60
	最終課題			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー		ソフトウェアリテラシーⅠ（スタンダード） Software Literacy Ⅰ (Standard)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	この授業では文書作成ソフト、「Microsoft Word」の使い方を学修する。学生は、Word に用意されている基本的なコマンドの意味と、そのはたらきを理解し、機能を活用して文書作成ができるようになることを目的とする。							
キーワード	Word 文書の作成 Word 文書処理技能認定試験. Microsoft Office Specialist Word	学修教育目標	学生は、日常よく使用する文書やレポート類を能率よく、かつ美しく作成できる力を身につけること、さらに全授業終了後に実施されるサーティファイ「Word 文書処理技能認定試験」や「Microsoft Office Specialist Word」にも挑戦することを目標とする。また、Type Quick 検定はSILVER LEVEL（正確率95%以上）かつスピード30WPMを目指す。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
Word の基本操作である文字の入力、文字の編集、文書の編集、文書の印刷、文書の作成、表を使った文書の作成、図形や画像を使った文書の作成を学修する。 また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。Type Quick による入力練習に時間をかけることが望まれる。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「就職基礎能力修得証明書」の認定基準領域の必須授業科目の1つになっている。 「プレゼンテーション実務士」、「観光ビジネス実務士」の取得要件選択科目の1つになっている。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：Word 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット				書 籍：学生に役立つ Word&Excel&PowerPoint 出 版：FOM 出版				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		Word の基本的な操作技能を身につけ活用できる。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。 ◎					
		② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。 ◎					
		③ 実行力	課題を完成させることができる。 ◎					
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。 ○					
		③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。 ○					
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。 ◎					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45	25			30			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		30	5			10			45
	技能に関する評価		10	20			10			40
	応用力に関する評価		5							5
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価						10			10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Word の基本操作ができ、Word の基本操作を理解し、人に教えることができる。					Word の基本操作ができ、Word の基本操作を理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション（授業の進め方、TGU.net）	講義、演習	社会人基礎力事前自己評価シートの記入	30
	課題			
第 2 回 ／	タイプクイック導入 Word の基本（第 1 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの登録 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 3 回 ／	タイプクイック Word の基本（第 1 章） 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 4 回 ／	タイプクイック 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 5 回 ／	タイプクイック 文書の編集（第 3 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 6 回 ／	タイプクイック 文書の印刷（第 4 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 7 回 ／	タイプクイック 文書の作成（第 5 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 8 回 ／	タイプクイック 文書の作成（第 5 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 9 回 ／	タイプクイック 表を使った文書の作成（第 6 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 10 回 ／	タイプクイック 表を使った文書の作成（第 6 章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	小テスト			
第 11 回 ／	タイプクイック 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）認定試験模擬演習	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 12 回 ／	タイプクイック 認定試験模擬演習	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 13 回 ／	タイプクイック 認定試験模擬演習	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 14 回 ／	タイプクイック 認定試験模擬問題仕上げ	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 15 回 ／	タイプクイック 総合学習問題の解説と練習	講義、演習	社会人基礎力事後自己評価シートの記入	60
	課題		復習：学期末テストに向けて	

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー		ソフトウェアリテラシーⅠ（アドバンス） Software LiteracyⅠ(Advanced)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	この授業では文書作成ソフト、「Microsoft Word」の使い方を学修する。学生は、Word に用意されている基本的なコマンドの意味と、そのはたらきを理解し、機能を活用して文書作成ができるようになることを目的とする。また、資格取得にも積極的に挑戦する。							
キーワード	Word 文書の作成 Word 文書処理技能認定試験 Microsoft Office Specialist Word	学修教育目標	学生は、日常よく使用する文書やレポート類を能率よく、かつ美しく作成できる力を身につけること、さらに全授業終了後に実施されるサーティファイ「Word 文書処理技能認定試験」または「Microsoft Office Specialist Word」の少なくとも一方を取得することを目標とする。また、Type Quick 検定はGOLD LEVEL（正確率 97%以上かつスピード 50WPM を目指す。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
教科書および配布教材を用いる。Word の基本操作である文字の入力、文字の編集、文書の編集、文書の印刷、文書の作成、表を使った文書の作成、図形や画像を使った文書の作成を修学する。また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。Type Quick による入力練習に時間をかけることが望まれる。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
文書作成ソフト（Word）は他科目においてもレポート作成で必要となることがある。本授業外でも日常的に使用して、様々な機能の活用イメージを持てるようにすること。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：Word 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		Word の基本的な操作技能を身につけ自在に文書作成ができる。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。					◎
		③ 実行力	課題を完成させることができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。					○
		③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	授業中は私語をせず、人々や社会との関わりの中で、道徳やマナーに留意し、規律高い活動が行える。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45				45		10	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		25				10			35
	技能に関する評価		10				10		5	25
	応用力に関する評価		10				5			15
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価						20		5	25
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
Word の基本操作だけでなく、実用的に Word を使いこなすことができ、人に教えることもできる。					Word の基本操作ができ、日常的な文書作成に Word を使うことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション（授業の進め方、TGU.net） コンピュータの基本操作	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第 2 回 ／	コンピュータの基本操作 タイプクイック導入 Word の基本（第 1 章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第 3 回 ／	タイプクイック練習 Word の基本（第 1 章） 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第 4 回 ／	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第 5 回 ／	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第 6 回 ／	タイプクイック練習 文書の編集（第 3 章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第 7 回 ／	タイプクイック練習 文書の印刷（第 4 章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第 8 回 ／	タイプクイック練習 文書の作成（第 5 章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第 9 回 ／	タイプクイック練習 文書の作成（第 5 章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第 10 回 ／	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第 6 章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第 11 回 ／	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第 6 章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第 12 回 ／	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第 13 回 ／	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第 14 回 ／	タイプクイック検定 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第 15 回 ／	総合学習問題の解説と練習 ブレースメントテスト	講義、演習	復習：学期末テストに向けて	60
	最終課題			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー		ソフトウェアリテラシーⅡ（ベーシック） Software LiteracyⅡ（Basic）		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	この授業では表計算ソフト「Microsoft Excel」を用い、データの集計ならびにその分析能力の基礎を身につけることを目的とする。Excel の基本操作を理解し、データの編集、表の作成、グラフの作成、図形の作成、関数、並べ替えなどの基本操作を修得する。							
キーワード			学修教育目標					
	Excel 表の作成 グラフの作成			実際の作成例をもとに、図表の作成、グラフや図形の作成、簡単な数式の計算ができるようになる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
Excel の基本操作であるデータの編集、表の編集、ブックの印刷、グラフと図形の作成、ブックの利用と管理、関数、データベース機能を学修する。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
表計算ソフトは他科目において演習・レポート作成に必要となることがある。日常的にパソコンを使用すること。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
書 名：Excel 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		Excel の基礎的な操作技能を身につける。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		与えられた課題を自発的に取り組むことができる。 ◎				
		② 働きかけ力		授業中に自らすすんで質問することができる。 ◎				
		③ 実行力		課題を完成させることができる。 ◎				
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力						
		② 計画力		課題ができるように計画的に準備ができる。 ○				
		③ 創造力		答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。 ○				
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		私語をしないで授業を受けることができる。 ◎				

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50				50			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	40				10			50	
	技能に関する評価	10				10			20	
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価					30			30	
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
Excel の基本操作を理解し、Excel を活用してデータ処理ができる。					テキストを参考にしながら、Excel の操作ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	授業のオリエンテーションと基本操作 授業についてのオリエンテーションを行う。その後エクセルの起動・終了、ファイル操作の方法や文字入力のかたなどを実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 小レポート			
第 2 回 ／	データの編集(1) 新規ブックの作成、データの入力、数式の入力について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 2 章 データの編集			
第 3 回 ／	データの編集(2) データの移動とコピー、相対参照、絶対参照について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 2 章 練習問題 1・2・3			
第 4 回 ／	表の編集 罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 3 章 表の編集、練習問題 1・2・3			
第 5 回 ／	ブックの印刷 印刷モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の指定について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 4 章 ブックの印刷、練習問題 1・2・3			
第 6 回 ／	グラフと図形の作成 (1) グラフの作成、図形の作成について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 5 章 グラフと図形の作成			
第 7 回 ／	グラフと図形の作成 (2) 様々なグラフの作成、図形の作成について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 5 章、練習問題 1・2・3			
第 8 回 ／	ブックの利用と管理 ワークシートの管理・ウィンドウ操作について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 6 章 ブックの利用と管理、練習問題 1・2・3			
第 9 回 ／	関数(1) 統計関数の使い方を実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 7 章の 1 関数/統計計算			
第 10 回 ／	関数(2) 数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 7 章の 2、3、4 関数/数学/論理関数/日付関数			
第 11 回 ／	関数(3) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 7 章 練習問題 1・2・3			
第 12 回 ／	データベース機能 リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 8 章、練習問題 1・2・3			
第 13 回 ／	総合学習問題（実習）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	総合学習問題			
第 14 回 ／	総合学習問題（解説） これまでに学修した内容の総復習を行う。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	総合学習問題			
第 15 回 ／	最終課題 これまでに学修した内容の活用力を確認する。	講義、演習	復習：学期末テストに向けて	60
	最終課題			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー		ソフトウェアリテラシーⅡ（スタンダード） Software LiteracyⅡ（Standard）		1単位	選択必修	演 習	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	この授業では表計算ソフト「Microsoft Excel」を用い、データの集計ならびにその分析能力を身につけることを目的とする。Excel の基本操作を理解した上で、数式の作成と編集、グラフ化、並べ替え、抽出、グループ集計などのデータベース機能の知識と操作方法を修得する。Excel は他の授業や卒業後社会に出てからも使う機会が多く、一通り使えるようになっておく必要がある。							
	Excel 表の作成 グラフの作成 Excel 表計算技能認定試験 MOS Excel	学修教育目標	学生は、実際の作成例をもとに、日常よく使用する図表や計算書などが能率よく、かつ美しく作成できる能力を身につけること、さらに全授業終了後に実施されるサーティファイ「Excel 表計算処理技能認定試験」や「Microsoft Office Specialist Excel」にも挑戦することを目標とする。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
Excel の基本操作であるデータの編集、表の編集、ブックの印刷、グラフと図形の作成、ブックの利用と管理、関数、データベース機能を学修する。また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。パソコン操作が苦手な学生は、自主学習により時間をかけてくることが望まれる。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
表計算ソフトは他科目において演習・レポート作成に必要なことがある。日常的にパソコンを使用すること。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：Excel 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		Excel の基本的な操作技能を身につける。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。					◎
		③ 実行力	課題を完成させることができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。					◎
		③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50		50					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		35		15					50
	技能に関する評価		10		15					25
	応用力に関する評価		5							5
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				20					20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Excel の基本操作ができ、Excel の基本操作を理解し、人に教えることができる。					Excel の基本操作ができ、Excel の基本操作を理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	授業のオリエンテーションと基本操作 授業についてのオリエンテーションを行う。その後エクセルの起動・終了、ファイル操作の方法や文字入力のかたなどを修得する。	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
	コメントシート			
第 2 回 ／	データの編集(1) 新規ブックの作成、データの入力、数式の入力について修得する。	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
	課題 2 章 データの編集			
第 3 回 ／	データの編集(2) データの移動とコピー、相対参照、絶対参照について修得する。	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
	課題 2 章 練習問題 1、2、3			
第 4 回 ／	表の編集 罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除について学修する。	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
	課題 3 章 表の編集			
第 5 回 ／	ブックの印刷 印刷モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の指定について修得する。	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
	課題 4 章 ブックの印刷			
第 6 回 ／	グラフと図形の作成 (1) グラフの作成、図形の作成について修得する。	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
	課題 5 章の 1 グラフと図形の作成/グラフの作成			
第 7 回 ／	グラフと図形の作成 (2) グラフの作成、図形の作成について修得する。	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
	課題 5 章の 2 グラフと図形の作成/図形の作成			
第 8 回 ／	グラフと図形の作成 (3) グラフの作成、図形の作成について修得する。	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
	課題 5 章 練習問題 2、3			
第 9 回 ／	ブックの利用と管理 ワークシートの管理、ウィンドウの操作について修得する。	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
	課題 6 章 ブックの利用と管理			
第 10 回 ／	関数(1) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
	課題 7 章の 1 関数/統計計算			
第 11 回 ／	関数(2) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
	課題 7 章の 2、3、4 関数/数学/論理関数/日付関数			
第 12 回 ／	関数(3) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
	課題 7 章 練習問題 1、練習問題 2			
第 13 回 ／	関数 (4) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
	課題 7 章 練習問題 3			
第 14 回 ／	データベース機能 リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入について修得する。	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
	課題 8 章 データベース機能、練習問題 1、2、3			
第 15 回 ／	総合学習問題の解説 これまでに修得した内容の総復習を行う。	講義、演習	授業内容の復習と問題	60
	総合学習問題			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段：英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー		ソフトウェアリテラシーⅡ（アドバンス） Software LiteracyⅡ（Advanced）		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	この授業では表計算ソフト「Microsoft Excel」を用い、データの集計ならびにその分析能力を身につけることを目的とする。Excel の基本操作を理解した上で、数式の作成と編集、グラフ化、並べ替え、抽出、グループ集計などのデータベース機能の知識と操作方法を修得する。サーティファイまたはマイクロソフトが主催する Excel の認定試験の対応をする。							
	キーワード Excel 表の作成 グラフの作成 Excel 表計算技能認定試験 MOS Excel	学修教育目標	学生は、実際の作成例をもとに、日常よく使用する図表や計算書などが能率よく、かつ美しく作成できる能力を身につける。全授業終了後に実施されるサーティファイ「Excel 表計算処理技能認定試験」または「Microsoft Office Specialist Excel」にも合格することを目標とする。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
Excel の基本操作であるデータの編集、表の編集、ブックの印刷、グラフと図形の作成、ブックの利用と管理、関数、データベース機能を学修し、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。技能確認のため、課題作成を行なう。単位取得には、課題を全て提出する必要がある。 また、認定試験に合格できるように学習時間を確保すること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「就職基礎能力修得証明書」の認定基準領域の必須授業科目の 1 つになっています。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：Excel 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット				書 名：Excel 表計算処理技能認定試験 3 級問題集（2019 対応） 著作者：サーティファイ 出版社：サーティファイ 書 籍：学生に役立つ Word&Excel&PowerPoint 出 版：FOM 出版				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		Excel の操作技能を身につける。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。					◎
		③ 実行力	課題を完成させることができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	表計算ソフトの理解に関して、目的や課題を明らかにすることができる。					◎
		② 計画力	自身の技能に合わせて課題を仕上げるスケジューリングや条件などをまず整理して計画する。					◎
		③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。					◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	授業中は私語をせず、人々や社会との関わりの中で、道徳やマナーに留意し、規律高い活動が行える。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50				50			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		30				10			40
	技能に関する評価		10				10			20
	応用力に関する評価		10				10			20
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価						20			20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Excel の基本操作ができ、人に教えることができる。Excel に関する認定試験に合格できる。					Excel の基本操作ができ、Excel の基本操作を理解し、人に教えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	第 1 章 授業のオリエンテーションと基本操作 授業についてのオリエンテーションを行う。その後エクセルの起動・終了、ファイル操作の方法や文字入力のかたなどを修得する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題 （以下、毎回、時間とも同様）	60
	課題 1 章 基本操作			
第 2 回 ／	第 2 章 データの編集 新規ブックの作成、データの入力、数式の入力について修得する。	講義、演習		
	課題 2 章 データの編集			
第 3 回 ／	第 3 章 表の編集 罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除について学修する。	講義、演習		
	課題 3 章 表の編集			
第 4 回 ／	第 4 章 ブックの印刷 印刷モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の指定について修得する。	講義、演習		
	課題 4 章 ブックの印刷			
第 5 回 ／	第 5 章 グラフと図形の作成 グラフの作成、図形の作成について修得する。	講義、演習		
	課題 5 章 グラフと図形の作成			
第 6 回 ／	第 6 章 ブックの利用と管理 ワークシートの管理、ウィンドウの操作について修得する。	講義、演習		
	課題 6 章 ブックの利用と管理			
第 7 回 ／	第 7 章 関数(1) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習		
	課題 7 章の 2、3、4 関数/数学/論理関数/日付関数			
第 8 回 ／	第 7 章 関数(2) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習		
	課題 7 章の 2、3、4 関数/数学/論理関数/日付関数			
第 9 回 ／	第 8 章 データベース機能 リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入について修得する。	講義、演習		
	課題 8 章 データベース機能			
第 10 回 ／	総合学習問題の解説 これまでに修得した内容の総復習を行う。	講義、演習		
	総合学習問題			
第 11 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（1） 練習と解説	講義、演習		
	練習問題 1、練習問題 2			
第 12 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（2） 練習と解説	講義、演習		
	練習問題 3、練習問題 4			
第 13 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（3） 練習と解説	講義、演習		
	練習問題 5、練習問題 6			
第 14 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（4） 練習と解説	講義、演習		
	練習問題 7、練習問題 8			
第 15 回 ／	総合学習問題の解説と練習 最終課題	講義、演習		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー		現代の統計学 Elementary Statistics		2 単位	必 修	講 義	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	現代社会では、統計の知識は、すべての人にとって必須の知識となっている。また社会科学等分野におけるデータ処理法を理解する上で非常に重要な基礎知識である。 本授業では、統計的思考方の重要性を学び、統計学が適用される現実の諸問題に関して、統計的に処理する方法論を学修する。具体的には、まず統計学の概念や論理的側面を全体的に把握し、さらに統計的処理の方法を自ら計算することにより統計学の必要性を修得する。							
キーワード	記述統計 母集団と標本 統計的検定 相関係数	学修教育目標	多方面で利用される統計的な処理の「論理的背景」を習得する。特に社会科学系等諸分野等における具体的な「統計手法」を修得する。また、今後履修する様々な応用専門科目の理解のための「統計学的素養」を身につける。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
本授業は、統計の基礎について講義する。同時に模擬データを用いて実際に統計計算を行って授業を進める。難しい数式を使わずに、表計算ソフト、SPSS を用いて授業を進めたい。授業内に課題を課すので自らの力で取組むこと。わからないことがあれば、授業内・授業外を問わず質問し、各自で問題を解決して欲しい。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「ソフトウェアリテラシー基礎」「ソフトウェアリテラシー応用」などパソコン関連の科目の内容とも関連するので、これらの科目の内容と関連付けながら受講すると理解がより深まる。								
教 科 書			参考書・リザーブドブック					
書 名：マンガでわかる統計学 著者名：高橋 信 出版社：オーム社			なし					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		授業を理解するために資料を集めることができる。					◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	質問に積極的に答えることができる。					○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。					◎
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性	他人の意見、アドバイスを受け入れ、自己向上にいかせる。					○
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べることができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
		総合評価割合	55							45
評価 の 指標	知識に関する評価	20							30	50
	技能に関する評価	20								20
	応用力に関する評価	15							15	30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
適切な統計解析手法を選択し、それを正しく使うことができる。 統計的検定を正確に用いることができる。					なぜ統計学が大事であるかを理解している。 統計的検定を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス　ー本講義の進め方や受講上の注意事項ー ①統計学のイメージは？　②統計学とは	講義・アクティブラーニング	予習：テキストP. 1～P. 12 を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 2 回 ／	データの特徴を捉える（1） 尺度について　質的データと量的データ	講義・アクティブラーニング	予習：テキスト第 1 章、第 3 章を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 3 回 ／	データの特徴を捉える（2） 度数分布とヒストグラム	講義・アクティブラーニング	予習：テキストP. 32-P. 39 を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 4 回 ／	データの特徴を捉える（3） 模擬データの実習	講義・アクティブラーニング	予習：P. 192-194 を予習しておく。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 5 回 ／	代表値について 最大値・最小値・平均値・中央値・最頻値	講義・アクティブラーニング	予習：　テキストP. 40-P. 47 を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 6 回 ／	平均値・分散・標準偏差について	講義・アクティブラーニング	予習：　テキストP. 48-P. 53 を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 7 回 ／	基準値と偏差値	講義・アクティブラーニング	予習：　テキスト第 4 章を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 8 回 ／	確率密度関数について	講義・アクティブラーニング	予習：　テキスト第 5 章を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 9 回 ／	相関係数について（1） 散布図を描く	講義・アクティブラーニング	予習：テキストP. 112-P. 120 を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 10 回 ／	相関係数について（2） 相関係数の算出	講義・アクティブラーニング	予習：テキストP. 207-P. 208 を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 11 回 ／	カイ二乗検定について 観測度数と期待度数	講義・アクティブラーニング	予習：第 7 章を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 12 回 ／	カイ二乗検定について 模擬データを用いた実習	講義・アクティブラーニング	予習：第 7 章を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 13 回 ／	模擬データを用いた練習（1）	講義・アクティブラーニング	予習：これまで学習したことを整理する。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 14 回 ／	模擬データを用いた練習（2）	講義・アクティブラーニング	予習：　これまで学習したことを整理する。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 15 回 ／	まとめ　ー統計学の利用方法について－	講義・アクティブラーニング	予習：　これまで学習したことを整理する。 復習：配布プリントを復習する。	120
	コメントシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
総合教養科目 基本リテラシー科目 身体健康リテラシー		健康と運動 Physical Activity and Health		1 単位	必 修	講 義	1 年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	運動には、血液循環機能や筋力・柔軟性の向上、骨量減少の防止、生活習慣病の予防など、身体に対する様々な効果が認められている。同時に他者との友好的な関係の構築やストレス発散など、社会的あるいは心理的な効果も期待できるとされている。さらに述べれば、特に高齢者においては、歩行を含めた日常生活での運動（身体活動量）の増大が、健康寿命の延伸に効果があると示されている。 本講義では、適切な運動の実践が導く健康への効果を、身体的・心理的・社会的側面から検討・考察し理解する。同時に運動の実践が導く健康への効果を、他者にわかりやすく説明することができるようにする。また得られた知識を基礎に、健康状態の維持・向上のために、自らが積極的に運動を実践していこうとする態度を育成する。								
	キーワード	健康 発育発達 動機づけ	学修教育目標	・ 運動実践が導く健康への効果を身体的・心理的・社会的側面から検討・考察し理解する。 ・ 運動実践が導く健康への効果を、他者にわかりやすく説明できるようにする。 ・ 健康状態の維持・向上のために、自らが積極的に運動を実践していこうとする態度を育成する。					
授業科目の概要及び学修上の助言									
日常の健康・運動関連事項について関心を持つ。 また日常生活においても健康に留意し、運動をしておくこと。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
特になし。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名：実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学 著者名：九州大学健康スポーツ科学研究会 出版社：大修館書店				なし					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		クライアントとのコミュニケーション方法について考えることができる。						○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		行動変容を促すアプローチ方法について考えることができる。						○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		クライアントへの動機づけをしたり、関係性を豊かにしたりする方法を実践することができる。						○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		ルールや約束を守り仲間と協力して授業に参加することができる。						○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		運動やスポーツに取り組む為のプログラミングづくりや継続方法を提案できるようになる。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、自ら進んで取り組むことができる。						○
		② 働きかけ力							
		③ 実行力	自分に必要な目的を理解し目標を設定して行動することができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握し、課題を見つけ解決しようすることができる。						○
		② 計画力							
		③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力							
		② 傾聴力							
		③ 柔軟性							
		④ 状況把握力							
		⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。						○
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性	他者の事を考えながら授業を受けることができる。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)
総合評価割合			59	10	31				100
評価の指標	知識に関する評価		40	10	10				60
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価		19		21				40
	チームワーク力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
①健康とは何かを十分に理解している。 ②運動処方について十分に理解している。 ③行動変容を阻害する要因を十分に理解している。					①健康とは何かを概ね理解している。 ②運動処方について概ね理解している。 ③行動変容を阻害する要因を概ね理解している。				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	健康とは何か ①健康と体力の違い ②いろいろな寿命	講義	今回の復習	20
第2回 ／	身体の仕組み ①生理学的基礎 ②運動による生理学的変化	講義	前回・今回の復習	20
第3回 ／	運動による身体的変化 ①トレーニングの種類(有酸素運動・無酸素運動) ②トレーニングの効果(有酸素運動・無酸素運動)	講義	前回・今回の復習	20
第4回 ／	トレーニングのルール ①原理原則 ②ピリオダイゼーション(期分け)	講義	前回・今回の復習	20
第5回 ／	動きとスポーツ科学 ①心理的スキルトレーニング ②健康・スポーツとライフスキル	講義	前回・今回の復習	20
第6回 ／	身体機能と心理社会的スキル ①セルフエフィカシー ②ラポールの形成 ③トランスセオレティカルモデル(TTM)	講義	前回・今回の復習	20
第7回 ／	健康と運動 ①生活習慣病と運動 ②減量計画	講義	前回・今回の復習	20
第8回 ／	運動計画づくり ①身体的・トレーニング的アプローチ ②心理的アプローチ	講義	前回・今回の復習	20

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 身体健康リテラシー		ニュースポーツ実習 Practice New Sports		1 単位	必 修	実 技	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	スポーツの固定概念にとらわれることなく、身体を動かすことの楽しさを追求することがニュースポーツである。 スポーツの観点から、スポーツ活動実践の有用性 ニュースポーツの意義を発見する。 目標として、既存スポーツのルールを越えて、楽しさを実感できるオリジナルなスポーツ、すなわちニュースポーツを考えることができることを目指す。 授業では、学生が相互にニュースポーツを模索し、評価をする。							
	ニュースポーツのチカラ 生活の自立・共生・生きがいづくり		学修教育目標	各種目の特性を理解し、生涯スポーツについて、知見を広めることができる。また、他者関係の構築、理解、受容を体得することができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
ニュースポーツの意義を考え、実習を通じて概要と特性に応じた支援方法や技術を、自ら学び自らの意思で積極的に取り組むことができる。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
専門的な知識・技術を身につけ、総合的に各プログラムの例を学修、展開方法・組み立ての理解と把握。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				書 名：公認スポーツ指導者養成テキスト、他 著者名：日本スポーツ協会 出版社：日本スポーツ協会				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		専門的な支援活動知識、方法を身につける。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		専門的な技能活動の展開方法、組み立てを身につける。					◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		支援・指導に必要な専門的な知識を身につける。					○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		交流をすすめ、「楽しい」の働きかけ、技術を身につける。					○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		健康づくりに必要な支援、効果的な活動。					○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		生活意欲、生活の質の向上。身体機能の維持・向上。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	健康の意義を考え、様々な素材、活動を知り、取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力	概要と特性を身につけ、自信を持ち、協働して取り組むことができる。					○
		③ 実行力	ニュースポーツの体験を通じ、「楽しい」と喜びを感じ、指導することができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	実習を通じ、目的や問題を明らかにし、的確に計画を立てることができる。					○
		② 計画力	支援プロセスをとらえ、自発的に問題を解決、的確に計画を立てることができる。					◎
		③ 創造力	多様な知識・技能を用いて、具体的に筋道を立て、効果的に伝えることができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	実技を具体的に、筋道を立てて、わかりやすく的確に伝えることができる。					○
		② 傾聴力	相手の考えを考慮して、適正に聴くことができる。					○
		③ 柔軟性	相手の立場を理解し、意見を聴き、正確に理解することができる。					○
		④ 状況把握力	自他の役割を把握して、最適な行動をすることができる。					○
		⑤ 規律性	様々な場面でのルールや約束を守り、責任ある行動がとれる。					○
		⑥ ストレスコントロール力	原因を取り除き、適切な対処方法を理解し行動が取れる。					○
4. 倫理観		① 倫理性	相手の立場、気持ちになって、「楽しい」「喜び」を伝えることができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	30	20					100
評価 の 指標	知識に関する評価		10							10
	技能に関する評価		20	30						50
	応用力に関する評価		5							5
	チームワークに関する評価		5							5
	関心・意欲に関する評価		10		20					30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各授業内で講義・実習を実施。 コミュニケーション・ワーク。指導力の向上に努力精進。 実習の安全管理、心身の健康、体調の自己管理責任。					ニュースポーツとは何かを考え、意義を知る。 ニュースポーツ実習を通じ、展開の方法、組み立てを知り実習することができる。 ニュースポーツのルールを知り、社会人としてのルール、約束ごとを守り、適切な態度・言動が取れることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	①ニューススポーツ実習 オリエンテーション ニューススポーツとは何かを考える 「スポーツの発達史 A」	教室 Let's Enjoy to New Sports	ニューススポーツの基本学修 「素材・アクティビティ」 概要と特性、ルール把握 学修反復問題 レポート 1/4 イベント計画案	90
	種類・意義を理解する スポーツは素晴らしい			
第 2 回 ／	②ニューススポーツ実習 種類種目調べ 概要と特性 ルール把握 他者とのコミュニケーションを高めるスポーツ	教室 展開・組み立て グループ運営	ニューススポーツの基本 「素材・アクティビティ」 概要と特性、ルール把握 学修反復問題	90
	体が動く 明るく元気になる 仲間ができる 健康になる 存在			
第 3 回 ／	③ニューススポーツ実習 スポーツマンシップとフェアプレー精神 RICE 国民体育大会 オリンピック・パラリンピックの歴史	教室 展開・組み立て グループ運営 一体感	概要と特性 個人と集団(仲間)が理解できる 「楽しみ・夢づくり・幸せづくり」の共感 共学―共楽―共励―共通体験―共喜―共感、共生 学修反復問題 レポート 2/4 イベント計画案	90
	スポーツをする利点 スポーツ実施に対する考え方 ” みんなで楽しむ”			
第 4 回 ／	④ニューススポーツ実習 キャッチング・ザ・スティック	体育館 グループ運営 歴史を知る	概要と特性、ルール把握 学修反復問題	90
	チームワーク 息を合わせる その場の雰囲気を読む			
第 5 回 ／	⑤ニューススポーツ実習 ゴムダンスステッピョン	体育館 グループ運営 歴史を知る	概要と特性、ルール把握 学修反復問題	90
	スポーツは身近な事を知る お互いを思いやる その場の雰囲気を読む			
第 6 回 ／	⑥ニューススポーツ実習 イメージチェアエクササイズ	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握 レポート 3/4 イベント計画案	90
	子どもから高齢者まで安全に運動できる			
第 7 回 ／	⑦ニューススポーツ実習 リレー	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	手具を使わないスポーツを楽しむ			
第 8 回 ／	⑧ニューススポーツ実習 ドッジボール	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	シンプルなプレイながら運動量が多く必ず経験するスポーツを再認識			
第 9 回 ／	⑨ニューススポーツ実習 パフリング	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握 レポート 4/4 イベント計画案	90
	タイミングを養う			
第 10 回 ／	⑩ニューススポーツ実習 ミニマラソン	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	何故？マラソンは4 2、1 9 5になったのか？			
第 11 回 ／	⑪ニューススポーツ実習 長縄	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	スポーツは身近な事を知る お互いを思いやる その場の雰囲気を読む			
第 12 回 ／	⑫ニューススポーツ実習 フリンゴ	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	エプロン上のクロスをラケットかわりにバウンドさせキャッチボールする			
第 13 回 ／	⑬ニューススポーツ実習 インディアカ	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	赤い羽根のシャトルをネットを挟みチーム4人相対して打ち合う競技			
第 14 回 ／	⑭ニューススポーツ実習 アルティメット	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	ドッチビーを使用 ダイビングカット ダイビングキャッチの魅力			
第 15 回 ／	⑮ニューススポーツ実習 ニューススポーツとは何かを振かえる 「スポーツの発達史 B」	教室 グループ運営 模擬試合と審判体験	ニューススポーツの基本学修 「素材・アクティビティ」 概要と特性、ルール把握 学修反復問題	90
	ニューススポーツとスポーツの違い、利点、使用方法			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 身体健康リテラシー		レクリエーション実習 Practice to Recreation and Sports		1 単位	必 修	実 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	新しい環境に馴染めないことで、良好な人間関係を構築することが難しいと考えている子どもたちや青年、また、健康な生活を心がけている中高年、全ての世代を対象に、心も身体も健やかに日常生活を送るためのきっかけ作りとしての意味を理解すること。 学校教育現場では、クラス運営や仲間作りのきっかけとして、活用できるように知識や技術を学び、また、地域社会においてはコミュニティの活性化に役立てられることを理解し、技術を身につけることを目的とする。							
	キーワード レクリエーションは楽しい 子どもの発育		学修教育目標	人間関係づくりの手法を体得することができ、ライフスキル獲得につなげることができる。中高年の健康維持・増進に役立つことを理解できる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
支援の基本技術や方法を、自らの意思で自ら学び、積極的に取り組むことができる。 「よりよく生きる」を目指し、多様な支援、様々な素材、指導活動方法を知ることができる。 「Smile for all」「楽しみ・夢づくり・幸せづくり・元気づくり」の共感。 各種目の概要と特性、学修プリント、授業内・授業外を問わず確認し、整理保存と復習をすること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
目的・対象・段階にあわせたプログラム例の把握と理解。 「レクリエーションとスポーツ」の展開方法・組み立ての理解。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
書 名：基本のアイスブレーキング・ゲーム 著者名：(公財) 日本レクリエーション協会 出版社：(公財) 日本レクリエーション協会				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		基礎的な支援知識、方法を身につける。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		基礎的な技術の学修と展開方法・組みたてを身につける。					◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		様々なレクリエーションの知識を身につける。					○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		多様な技術を身につけ、自覚と責任ある行動ができる。					○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		楽しみ・夢づくり・幸せづくり・元気づくりができる。					○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		「いつでも どこでも だれとでも」リーダーとなって指導ができる。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自らの意思で学修を進め、自信をもって何事にも取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力	協力者に声掛け、役割分担を決め、効果的に協働し取り組むことができる。					○
		③ 実行力	何事にも、失敗を恐れず体験、喜びを感じ、自信をもって確実に行動することができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	目的や問題点を明らかにし、的確に解決策を見つけ行動することができる。					○
		② 計画力	個々の支援プロセスをとらえ、自発的に、実践的に計画することができる。					◎
		③ 創造力	多様な知識・技能を用いて、具体的にわかりやすく伝え、創意工夫することができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	事例・模範ゲームを用いて、具体的に的確にわかりやすく伝えることができる。					◎
		② 傾聴力	相手の話をよく聴き、正確に理解することができる。					○
		③ 柔軟性	他人の考えに共感をもち、自分の役割が何かを見極め、自信をもって取り組むことができる。					○
		④ 状況把握力	自分にできること、他人が出来ることとは何か、すぐ判断し行動することができる。					○
		⑤ 規律性	挨拶や礼儀、ルールや約束・マナーを理解、模範となる行動をとることができる。					○
		⑥ ストレスコントロール力	原因を見つけ、不安を取り除き、自力で対処方法を考え的確に取り組むことができる。					○
4. 倫理観		① 倫理性	相手や周囲の立場に立って、自覚と責任をもって行動することができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20	30				100
評価 の 指標	知識に関する評価		10		20					30
	技能に関する評価		20			30				50
	応用力に関する評価		10							10
	チームワーク力に関する評価		5							5
	関心・意欲に関する評価		5							5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各回の授業内で講義・実習を実施。自考力、支援の技術を高め、磨き続けること。 コミュニケーション・ワーク、アイスブレーキングの理解と把握、普及と推進。 支援活動の安全管理、心身の健康、体調の自己管理のプレゼン実施。					レクリエーションとスポーツとは何かを考え、意義を知り、その理解と把握。 レクリエーションの支援の方法、組み立ての理解と把握。 「仲間・健康・笑顔・元気づくり」への理解度。 実習をとまなう為、全出席とする。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション・レクリエーションとは何か レクリエーション支援の方法①	質疑応答 実技形式	レクリエーションの基礎知識の習得 アイスブレーキングの基礎知識の習得	30
	レクリエーションの意味を理解する レクリエーションインストラクター資格取得説明			
第 2 回 ／	レクリエーション支援の方法② 道具を使わないアイスブレーキングゲーム(1)	質疑応答 実技形式	レクリエーション・アイスブレーキングの習得	30
	環境・状況に関わらずアイスブレーキングができる事を学ぶ			
第 3 回 ／	レクリエーション支援の方法③ 仲間作りを目的とした音楽のワーク（1） 音楽や歌を使ったレクリエーション	実技形式 グループ活動	音楽の影響力の認知 個人の回想・熟考 自発的行動の意識	30
	音楽や歌を使い仲間づくりの理論を理解する			
第 4 回 ／	レクリエーション支援の実施① 音楽や歌を使ったレクリエーションのグループの発表・評価（1）	実技形式 グループ活動 グループ発表	発表提供レポート 1/4	30
	音楽や歌を使い楽しい仲間づくりを提供する			
第 5 回 ／	レクリエーション支援の方法④ 少人数のアイスブレーキングゲーム(1) 仲間作りを目的としたゲーム	質疑応答 実技形式	授業時に提示された課題に取り組む	30
	スキンシップの効果を考える			
第 6 回 ／	レクリエーション支援の方法⑤ 対象者の身体能力に合わせたレクリエーション（1）	実技形式 グループ活動	授業時に提示された課題に取り組む	30
	体を動かすことで仲間づくりの理論をする			
第 7 回 ／	レクリエーション支援の方法⑥ 対象者の身体能力に合わせたレクリエーション（2）	実技形式 PDCA を行う グループ活動	ODCA を行い立案 発表提供レポート 2/4	30
	グループワークへの参加			
第 8 回 ／	レクリエーション支援の実施② 各グループの発表・評価（2）	実技形式 グループ発表	授業時に提示された課題に取り組む	30
	提供への熱意 参加者としての配慮			
第 9 回 ／	レクリエーション支援の方法⑦ 対象者の環境・状況合わせたゲームのレクリエーション（1）	実技形式 グループ活動	授業時に提示された課題に取り組む	30
	着席で行うレクリエーション			
第 10 回 ／	レクリエーション支援の方法⑧ 対象者の環境・状況合わせたゲームのレクリエーション（2）	実技形式 PDCA を行う グループ活動	授業時に提示された課題に取り組む 発表提供レポート 3/4	30
	グループワークへの積極的参加			
第 11 回 ／	レクリエーション支援の実施③ 各グループの発表・評価（3）	実技形式 グループ発表	授業時に提示された課題に取り組む	30
	提供への熱意 参加者としての配慮 全体のチームワーク			
第 12 回 ／	レクリエーション支援の方法⑨ 対象者の環境・状況合わせたゲームのレクリエーション（3）	実技形式 グループ活動	授業時に提示された課題に取り組む	30
	動作を伴い行うレクリエーション			
第 13 回 ／	レクリエーション支援の方法⑩ 対象者の環境・状況合わせたゲームのレクリエーション（4）	実技形式 PDCA を行う グループ活動	授業時に提示された課題に取り組む 発表提供レポート 4/4	30
	グループワークへの積極的参加			
第 14 回 ／	レクリエーション支援の実施④ 各グループの発表・評価（4）	実技形式 グループ発表	授業時に提示された課題に取り組む	30
	提供への熱意 参加者としての配慮 全体のチームワーク			
第 15 回 ／	レクリエーション支援の実施⑤ 各グループの発表・評価（5）	実技形式 グループ発表	授業時に提示された課題に取り組む	30
	提供への熱意 参加者としての配慮 全体のチームワーク			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期	
総合教養科目 基本教養科目		現代徳育論 Contemporary Moral Education Theory		2 単位	選 択	講 義	1 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学 修 教 育 目 的	本学の建学の精神「教育は徳なり」をふまえて、現代の社会でより良く生きるために考えておくべきことについて理解を深めることを目的とする。								
	友人 男女 働く 共生 ダイバーシティ 徳	学 修 教 育 目 標	現代社会で求められる「徳」について自分自身で考えられるようになり、日々の生活に活かしていくことができるようになることを目標とする。						
授業科目の概要及び学修上の助言									
身近な問題から「徳」について考えていく。それらの問題について自分の考えや意見を発表してもらうため、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れた授業形態を取る。 主体的・積極的な授業参加が必要。Web を使用した授業参加もしてもらうため、インターネット接続可能なノート PC、タブレットを持参すること（スマートフォンは画面の小ささと操作性の問題からおすすめしない）。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
大学生生活全般に関連する。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
なし				なし					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		子どもとの対応を含めた現代社会で生きていく上で必要とされる倫理観・徳について理解を深め、身につけることができる。						
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		子どもとの対応を含めた実社会で活用できる倫理観・徳について理解を深め、問題解決に取り組むことができる。						
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自分なりに判断し、他者に流されず行動できる。						○
		② 働きかけ力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義・理由・内容等)を伝えることができる。						○
		③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。						○
		② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。						○
		③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。						○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。						○
		② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。						○
		③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。						○
		④ 状況把握力	自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。						○
		⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。						○
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている。						○
4. 倫理観		① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	45		15	20			20	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	15		5	4				4	28
	技能に関する評価				4				4	8
	応用力に関する評価	15		5	4				4	28
	チームワークに関する評価			5	4				4	13
	関心・意欲に関する評価	15			4				4	23
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
授業で学んだ内容を深く理解し、今後の大学生活と社会人生活のなかで活かして応用し、さらに発展させることができるようになる。					授業で学んだことを理解し、今後の大学生活のなかで活かして応用することができるようになる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 1. 「徳」について考えてみよう 2. 友人について①	講義とグループワーク	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出	20
	プレゼンテーション・グループワークへの参加、ワークシート作成・提出			
第 2 回 ／	友人について②	講義とグループワーク	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出	20
	プレゼンテーション・グループワークへの参加、ワークシート作成・提出			
第 3 回 ／	友人について③	講義とグループワーク	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出	20
	プレゼンテーション・グループワークへの参加、ワークシート作成・提出			
第 4 回 ／	3. 男性・女性について①	講義とグループワーク	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出	20
	プレゼンテーション・グループワークへの参加、ワークシート作成・提出			
第 5 回 ／	男性・女性について②	講義とグループワーク	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出	20
	プレゼンテーション・グループワークへの参加、ワークシート作成・提出			
第 6 回 ／	4. ダイバーシティについて①	講義とグループワーク	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出	20
	プレゼンテーション・グループワークへの参加、ワークシート作成・提出			
第 7 回 ／	ダイバーシティについて②	講義とグループワーク	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出	20
	プレゼンテーション・グループワークへの参加、ワークシート作成・提出			
第 8 回 ／	ダイバーシティについて③	講義とグループワーク	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出	20
	プレゼンテーション・グループワークへの参加、ワークシート作成・提出			
第 9 回 ／	5. 共生について①	講義とグループワーク	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出	20
	プレゼンテーション・グループワークへの参加、ワークシート作成・提出			
第 10 回 ／	共生について②	講義とグループワーク	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出	20
	プレゼンテーション・グループワークへの参加、ワークシート作成・提出			
第 11 回 ／	共生について③	講義とグループワーク	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出	20
	プレゼンテーション・グループワークへの参加、ワークシート作成・提出			
第 12 回 ／	6. 働くことについて①	講義とグループワーク	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出	20
	プレゼンテーション・グループワークへの参加、ワークシート作成・提出			
第 13 回 ／	働くことについて②	講義とグループワーク	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出	20
	プレゼンテーション・グループワークへの参加、ワークシート作成・提出			
第 14 回 ／	働くことについて③	講義とグループワーク	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出	20
	プレゼンテーション・グループワークへの参加、ワークシート作成・提出			
第 15 回 ／	7. 「徳」について再び考える	講義とグループワーク	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出	20
	プレゼンテーション・グループワークへの参加、ワークシート作成・提出			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目		堺学（堺の文化と歴史） Study of Sakai City (Culture and History of Sakai City)		2 単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	本学の所在する堺市は注目すべき歴史遺産や中世・近世・近代・現代にわたるユニークな都市としての歴史がある。世界遺産になった百舌鳥古市古墳群、ヨーロッパにまで知られた中世海外交易都市、鎖国と大和川の付け替えでも消滅しなかった近世商工都市、海浜を生かした近代アーバンリゾート都市の歴史など。そこで生み出された文化は現代の社会生活にも生きている。学生生活をはじめ、地域社会で活動していくうえで、その歴史や文化にふれることは有意義である。単に郷土史を知るということではなく、都市が形成され、成長・変遷の様子をさぐり、そこに生きる生き方・暮らし方にコミットし、未来につなぐことができるようになる。							
	都市、文化、歴史、堺、百舌鳥古市古墳群 世界文化遺産	学修教育目標	大学の立地する都市の歴史・文化・まちづくりの姿を具体的に理解し、学生生活中はいうにおよばず、将来の社会生活や活動に有益な知識や見方・考え方を身につけることができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
中・近世、近・現代と連続して存立してきた都市が、時代により、その特徴や性格が変遷してきたことに留意し、次の時代にあるべき都市の姿を考えることも大切で、都市から国、さらに世界を見る視点を養う。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
毎授業ごとに具体的テーマを設定。用意する資料・レジュメを活用する。教員からの見方だけでなく、いろんな見方・捉え方があるはずなので、質問・設問時間をとる。資料・レジュメは整理・保存・毎時持参すること。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
なし				書 名：堺意外史１００話（２０１９年） 著者名：中井 正弘 出版社：ホウユウ出版部				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		所定の学修以外に自主的に博物館等の見学学修を行う。					○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		学内図書館にも本授業の参考になる図書があるので予習・復習に活用。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	学外授業が設定された場合は積極的に出席すること。					◎
		② 働きかけ力	わからないことを積極的に質問すること。					○
		③ 実行力	図書館利用					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	わかること、わからないことを明確にして学修にはげむ。					◎
		② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。					△
		③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自主的な在住地等の博物館・資料館見学を共同で取り組む。					○
		② 傾聴力	授業を熱心に受けるだけでなく、他の学生に迷惑をかけない。					○
		③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。					△
		④ 状況把握力	授業の雰囲気盛り上げるように状況把握をする。					○
		⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。					△
		⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。					△
4. 倫理観		① 倫理性	受講学生同士の協力、助け合って学力をつける。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			59		20	21				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		30		10	5				45
	技能に関する評価					6				6
	応用力に関する評価		10							10
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価		19		10	5				34
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
堺学についての積極的な学修をふまえ、さらに他都市の文化と歴史についての関心と学修の意欲を持つ。					堺の文化と歴史について相応の理解と関心を持つ。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	シラバスなどの説明 「堺学」の学修目的	講義	予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 2 回 ／	世界遺産になった百舌鳥・古市古墳群と大山古墳（仁徳陵）	講義	予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 3 回 ／	河内鋳物師の活躍 泉北丘陵は古代のハイテク須恵器の一大生産地帯	講義	予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 4 回 ／	律令国家体制（奈良時代）と堺出身の僧・行基	講義	予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 5 回 ／	東南・東アジアの繁栄と堺商人の海外交易の実態	講義	予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 6 回 ／	泉南仏国といわれた中世都市堺、千利休の大成させた茶の湯文化	講義	予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 7 回 ／	キリスト教宣教師が見た戦国時代の堺	講義	予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 8 回 ／	鉄砲の量産が可能だった鍛冶のまち堺	講義	予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 9 回 ／	大坂夏の陣後のみごとな復興計画都市	講義	予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 10 回 ／	鎖国と大和川の付け替えでも消滅しなかった町と港湾・新地・新田開発	講義	予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 11 回 ／	大阪府に併合された堺県の近代教育と産業振興	講義	予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 12 回 ／	海浜リゾート都市だった近代（大浜・浜寺と与謝野晶子）	講義	予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 13 回 ／	アジア太平洋戦争下のまちと堺大空襲 臨海工業地帯の造成と泉北ニュータウン建設	講義	予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 14 回 ／	堺の伝統産業	講義	予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
第 15 回 ／	周辺町村合併および政令指定都市と現在のまちづくりの課題	講義	予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	まとめ			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目		表現入門 Introduction to Japanese Expression		2 単位	選 択	講 義	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	国際化、情報化時代における国語学習である。学生が日本文化全体を含めた日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につける。高等学校において既に学習しているはずの文字や文章にかかわる項目以外に、口語（音声）表現における敬語等待遇表現などの基本的な知識をも整理復習して、さらにその活用方法を学ぶ。その他、就職活動に不可欠な履歴書・エントリーシートなども扱い、自己を正確に分析する能力をも身につける。							
	キーワード	国語常識	学修教育目標	学生が日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につけることができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
教科書に沿って逐次問題演習をしていくので、必ず教科書を持参して授業に臨むこと。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
特に無し。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
書 名：キャリアアップ国語表現法 24 訂版 著者名：丸山顕徳、その他 出版社：嵯峨野書院				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		発信力をつけたり、問題解決能力など社会で必要な基本的な力を養う。○					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につける。◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。◎					
		② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。○					
		③ 実行力	実際に解答を板書して他者の同意を求める。◎					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している。◎					
		② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。△					
		③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。△					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。○					
		② 傾聴力	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。◎					
		③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。○					
		④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。◎					
		⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。◎					
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。○					
4. 倫理観		① 倫理性	相手の意思決定や権利を守りながら行動することができる。○					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			59			35			6	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		40			30				70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		9							9
	チームワーク力に関する評価								6	6
	関心・意欲に関する評価		10			5				15
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
国語常識として必要な殆どすべての知識を身につけることができた。					国語常識としてよく使われる知識については修得できた。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	授業ガイダンス 就職試験（国語常識）との関係	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 2 回 ／	文字表現 1 同音異義語	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 3 回 ／	文字表現 2 同訓異義語	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 4 回 ／	文字表現 3 音訓と熟語 文字表現 4 四字熟語	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 5 回 ／	文章作成 1 レトリック 文章作成 2 慣用表現の誤用	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 6 回 ／	文章作成 3 文のしくみ	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 7 回 ／	文章実践 1 縦書き原稿用紙の使い方 横書き原稿用紙の使い方	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 8 回 ／	文章実践 2 手紙とハガキ①	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 9 回 ／	文章実践 3 手紙とハガキ②	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 10 回 ／	文章実践 4 実際に書く（ハガキ等）	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 11 回 ／	口語表現 1 待遇表現①	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 12 回 ／	口語表現 2 待遇表現②（婉曲表現）	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 13 回 ／	口語表現 3 接客・電話・SNS	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 14 回 ／	就職作戦 1 履歴書とエントリーシート	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 15 回 ／	就職作戦 2 面接の答え方のポイント	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習	予習 30
	問題演習			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期
総合教養科目 基本教養科目		文章作成法 Japanese Composition		2 単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学 修 教 育 目 的	国語の表現力を鍛えることは、知性や感性を磨き豊かな日常生活を送るために不可欠である。日本語表現に関する特質を学び、社会人として必要な文章表現能力を涵養する。現代社会における複雑な人間関係の中で積極的であるために、的確な表現力を身に付け、正確に自己の考えを相手に伝達できるコミュニケーション能力を養う。 目標として、社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身に付けることをめざす。							
	キ ー ワー ド	適確な表現力・コミュニケーション能力	学 修 教 育 目 標	社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身につけることができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
（概要）書くことに慣れ、短文を重ねることで長文が書けるようにする。 （助言）毎時間の学修の復習と、課題作文等に対し継続して取り組むこと。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
（関連）他教科でのレポート等の課題に取り組む時に、本科目で学習した文章表現力を生かし、短文を重ねて表現することができる。 （予備知識）要約する力。								
教 科 書				参 考 書 ・ リ ザ ー ブ ド ブ ッ ク				
手作り資料				書 名：大学生のための日本語表現トレーニング 著者名：安部朋世 他 出版社：三省堂				
No.	学 科 教 育 目 標		学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 （※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		社会人として必要な文章表現能力を涵養する。 ◎					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身に付ける。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 （※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		表現したい事柄に自ら気づくことができるようにする。 ○				
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力						
		③ 創造力		書きたい内容を取材し、どのように構成すればよいのか考えることができるようにする。 ◎				
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力		他人が書いた文章の、よさを見つけたり、私ならこう書くという批評的な観点から文章を読んだり、聞いたりすることができる。 ◎				
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性		正確に自己の考えを相手に伝達できるコミュニケーション能力を養うために、助言や指摘をきちんと受け止め、校正することができる。 ○				
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50				25	25		100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		25					25		50
	技能に関する評価		25				15			40
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価						10			10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身につけることができた。					受講前と比して、表現力やコミュニケーション能力を高めることができた。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	授業ガイダンス。（事前・社会人基礎力含む） ① アカデミックワードと日常語 ② 仮名遣い・送り仮名 ③ （作文）夢（400 字）＜相互評価＞	講義と演習(作文)	「自分の夢」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p1、2、5、6	60
	学修の進め方を理解し、本時の作文課題「私の夢」について、自分の夢が書けている。			
第 2 回 ／	④ 句読点 ⑤ 四字熟語・ことわざ・慣用句 ⑥ （作文）趣味（400 字）＜相互評価＞	講義と演習(作文)	「自分の趣味」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p9、10、13、14	60
	本時の作文課題「私の趣味」について、書けている。			
第 3 回 ／	⑦ 漢字の使い分け・見やすい表記 ⑧ （作文）好きな食べ物（400 字）＜相互評価＞	講義と演習(作文)	「自分の好きな食べ物」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p17、18、21、22	60
	本時の作文課題「私の好きな食べ物」について、書けている。			
第 4 回 ／	⑨ 敬語・手紙 ⑩ （作文）行ってみたいところ（400 字）＜相互評価＞	講義と演習(作文)	「行ってみたいところ」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p23、24、27、28	60
	本時の作文課題「行ってみたいところ」について、書けている。			
第 5 回 ／	⑪ Eメール・あいまいな文 ⑫ （作文）好きな映画（俳優）（400 字）＜相互評価＞	講義と演習(作文)	「好きな映画（俳優）」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p31、32、35	60
	本時の作文課題「好きな映画（俳優）」について、書けている。			
第 6 回 ／	⑬ 分かりやすい語順・長い文を分ける ⑭ 「好きな歌（歌手）」（400 字）＜相互評価＞	講義と演習(作文)	「好きな歌（歌手）」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p37、39、40	60
	好きな歌（歌手）について、書けている。			
第 7 回 ／	⑮ 文のねじれ・接続表現の使い方 ⑯ 「好きな本（作家）」（400 字）＜相互評価＞	講義と演習(作文)	「好きな本（作家）」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p43、45、46	60
	好きな本（作家）について、書けている。			
第 8 回 ／	⑰ 結論を先に述べる・事実か意見か ⑱ 「～たいなあ（私の欲望）」（400 字）＜相互評価＞	講義と演習(作文)	「～たいなあ（私の欲望）」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p49、51、52	60
	「～たいなあ（私の欲望）」について、書けている。			
第 9 回 ／	⑲ データの解釈・レポートの内容と執筆スケジュール ⑳ 「自慢」（400 字）＜相互評価＞	講義と演習(作文)	「自慢」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p55、56、59	60
	「自慢」について、書けている。			
第 10 回 ／	㉑ 文献の検索・調査課題の設定 ㉒ 「1 語だけを残すなら」（400 字）＜相互評価＞	講義と演習(作文)	「1 語だけを残すなら」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p61、63	60
	「1 語だけを残すなら」について、書けている。			
第 11 回 ／	㉓ レポートの構成・注の書き方 ㉔ 「私の幸せ論」（400 字）＜相互評価＞	講義と演習(作文)	「私の幸せ論」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p65、67、68	60
	「私の幸せ論」について、書けている。			
第 12 回 ／	㉕ 参考文献の書き方・体裁・書式 ㉖ 「もしも」（400 字）＜相互評価＞	講義と演習(作文)	「もしも」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p71、72、75	60
	「もしも」について、十分書けている。			
第 13 回 ／	㉗ レポート課題とレポートを欠く順序・先行研究について ㉘ 「私の折々の歌」（詩や短歌の鑑賞文）（400 字）＜相互評価＞	講義と演習(作文)	いくつかの「折々の歌」（詩や短歌の鑑賞文）について読んでくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p77、79、80	60
	「私の折々の歌」（詩や短歌の鑑賞文）について、書けている。			
第 14 回 ／	㉙ 調査の概要・調査結果と考察 ㉚ 「大人のぬりえ本（絵本の文章）」（400 字）＜相互評価＞	講義と演習(作文)	「絵本の文章」について考えてくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p85、86、89、90	60
	他人が書いた作品(文章)のよさを見つけることができる。			
第 15 回 ／	㉛ 結論と今後の課題・そして「はじめに」へ ㉜ 「私の文章作成法」	講義と演習(作文)	これまでの学修を復習してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p93、94、97、98	60
	これまでの学修を振り返り「私の文章作成法」が書けている。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期	
総合教養科目 基本教養科目		日本の文学 Japanese Literature		2 単位	選 択	講 義	1 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学 修 教 育 目 的	日本の文学を古代から、中世・近世・近現代にわたって俯瞰する。古事記・日本書紀から芥川賞・直木賞作品までを文章や動画等を通して各時代の作品に触れ、日本の文学への関心をもつことができる。								
	キ ー ワ ー ド	日本文学史	学 修 教 育 目 標	学生が日本文学の発生と展開を学ぶことにより、広く人間と文学について考えることができるようにする。 また、近現代文学の一端に触れることを通して、日本の近現代文学についても自分の考えを述べるこができる					
授業科目の概要及び学修上の助言									
シラバスのタイトルなどの内容をあらかじめ調査しておく と授業に興味がもてよう。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
特になし。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名：最新 国語便覧（改訂・増補） 著者名： 出版社：浜島書店				「源氏物語」等授業で取扱う教材の文庫等					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。								
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		歴史や文学を通して先達の「知恵」を学び、実社会での問題解決能力を身につける。 ◎						
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。						◎
		② 働きかけ力							
		③ 実行力							
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している。						◎
		② 計画力							
		③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力							
		② 傾聴力	内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる。						◎
		③ 柔軟性							
		④ 状況把握力							
		⑤ 規律性							
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性							

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30	20				100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		30					60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20			20				40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
古代の日本文学と歴史的背景を学ぶ。各回の内容（講義と視聴覚教材）はもちろんそれぞれの授業内容の相互関連性をも理解されている。					授業内容の相互関連性は多少分かりづらい面があっても、各回の内容について興味の持てる部分については感想や疑問を投げかけることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 授業の説明	講義と演習	シラバスを事前に読んでくる	復習 60
第 2 回 ／	日本の古代文学(1) ―古事記―	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
	―基本的な知識と特性を理解する―			
第 3 回 ／	日本の古代文学(2) ―日本書紀―	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
	―基本的な知識と特性を理解する―			
第 4 回 ／	日本の古代文学(3) ―万葉集―	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
	―基本的な知識と特性を理解する―			
第 5 回 ／	日本の古代文学(4) ―竹取物語―	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
	―基本的な知識と特性を理解する―			
第 6 回 ／	日本の古代文学(5) ―勅撰和歌集―	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
	―基本的な知識と特性を理解する―			
第 7 回 ／	日本の古代文学(6) ―枕草子―	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
	―基本的な知識と特性を理解する―			
第 8 回 ／	日本の古代文学(7) ―源氏物語―	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
	―基本的な知識と特性を理解する―			
第 9 回 ／	演習(1) ―日本の古代文学について―	講義と演習	万葉集・竹取物語・枕草子・源氏物語からレポート作成	復習 60
	古事記・日本書紀・万葉集・竹取物語・枕草子・源氏物語からレポート報告			
第 10 回 ／	日本の中世文学(1) ―幽玄・有心の文学観(1)―	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
	―基本的な知識と特性を理解する―			
第 11 回 ／	日本の中世文学(2) ―幽玄・有心の文学観(2)―	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
	―基本的な知識と特性を理解する―			
第 12 回 ／	日本の近世文学(1) ―上方文学―	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
	―基本的な知識と特性を理解する―			
第 13 回 ／	日本の近世文学(2) ―江戸文学―	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
	―基本的な知識と特性を理解する―			
第 14 回 ／	日本の近現代文学 ―明治以降―	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
	―基本的な知識と特性を理解する―			
第 15 回 ／	演習(2)日本の近現代文学 ―芥川・直木賞―	講義と演習	私の好きな小説レポート作成	復習 60
	私の好きな小説レポート報告			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段：英名表記）		単 位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目		現代社会論 Problems of Contemporary Societies		2 単位	選 択	講 義	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	数年後に社会に出ていく学齢として、身边から世界情勢までを含んだ社会というものへの関心と知識は不可欠となります。大学生として社会に目を向ける態勢を整え、常識的知識を獲得することが本科目の目的となります。							
キーワード	現代、社会、現代社会、社会問題	学修教育目標	世の中に関する一般的・常識的な知識を身につけ、現在の新聞・テレビ・ネット等のメディアで伝えられる事柄に関心を持ち理解できるようになること。 また、自分の考えを言葉にして伝え、それについて話し合いができるようになること。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
現代社会の現状および諸問題に関する資料を教員が準備し、それに関して受講生が調査・考察・発表・質疑応答を行います。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
人間と社会に関する積極的な関心および探究意欲								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				(適宜、指示する)				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		現代社会の諸問題とその背景を理解できる。 ○					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	課題に積極的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力						
		② 計画力	課題を完遂するまでのステップを確認できる。					○
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自己の考えや成果物に関して表現することができる。					○
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		25	30				100
評価 の 指標	知識に関する評価		45		10	20				75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15	10				25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
現代社会における諸問題をそのそれぞれの背景とそれらの相互関連のもとに理解し、十分に準備されたプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。					現代社会における諸問題を個別的に理解し、標準的なプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 2 回 ／	次回以降の準備学修等	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 3 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（1）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 4 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（2）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 5 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（3）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 6 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（4）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 7 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（5）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 8 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（6）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 9 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（7）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 10 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（8）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 11 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（9）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 12 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（10）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 13 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（11）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 14 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（12）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 15 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（13）	講義	資料の検討、課題作成等	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目		介護概論 Introduction to Care		2 単位	選 択	講 義	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	教員資格を目指すにあたり、事前課題である「介護等体験」を理解し現場での実習をスムーズに実施できることを主目的とする。社会福祉施設や特別支援学校における支援内容・方法について考え、演習を通して、教育者に必要な姿勢や考え方を養う。本講義では、高齢者介護の知識や介護技術を中心に介護体験がより良く行えるよう、また、実習の意義や必要性についての理解を深める。							
	キーワード	高齢者介護 利用者理解 実習の意義 実習態度	学修教育目標	社会福祉施設および特別支援学校における介護等体験の意義や体験内容を理解し、実習にあたっての自身の心構えや学びたい目標を事前に準備をすることができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
介護等体験で関わる高齢者や障害のある人について、置かれた状況や必要とする支援内容、また、日常生活を営む上で、その人の有する能力を活用し、その人らしい生活を営めるよう支援するための原理原則について、講義、ワークを通じて基礎知識の習得と定着をはかる。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
新聞および各種メディアの報道に関心を持ち、特に福祉・介護等生活領域での問題やトピックスを理解するよう心がける。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：改訂 人にやさしい介護技術 著者名：野村 敬子 出版社：中央法規				単元ごとにレジュメと参考資料を配布します。				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		学童が成長していく過程をライフサイクルから捉え、その中で障がいを持って成長する事を理解し人権について考えることができる。					○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		障がい児の特性を理解しその特性に応じた関わり方の違いと技術を学ぶ。					○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		障がい児の発達を理解し、その成長の先に高齢者問題があることも含めて理解でき、制度との関係を学ぶ。					○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		障がい児の特性に応じた生活支援の方法や喀痰吸引制度について学ぶ。					○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		介護を必要とする人の生活のしづらさを理解し、相手の立場に立って必要な支援を考えることができる。					○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		障がい児・者、高齢者問題から社会福祉を広義に理解し、現代社会における福祉の現状と課題を理解できる。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。					○
		② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。					○
		③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。					○
		② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。					○
		③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる。					○
		② 傾聴力	相手の話をしっかり聴き、思いや願いを理解することができる。					○
		③ 柔軟性	その場の状況に合わせた援助方法を選択し、実施できる。					○
		④ 状況把握力	冷静かつ客観的に必要な情報を収集することができる。					○
		⑤ 規律性	ルールを守り与えられた役割について責任をもって遂行することができる。					○
		⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。					△
4. 倫理観		① 倫理性	いかなる状況であっても人としての尊厳をまもり、援助者として必要な態度をとることができる。					○

※1 ①:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ②:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される ③:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ①:効果的に発揮できる力が身に付く ②:通常の状況で発揮する力が身に付く ③:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	10	20	20				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		50	10	20	20				100
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
支援を必要とする人の立場に立ち、その人の思いや希望に沿った支援が実施できる。					支援を必要とする人の思いや希望を理解し、必要とされる支援について考えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	介護概論を学ぶ意義 1 オリエンテーション 自己紹介、授業の目標、授業の進め方、介護を学ぶ必要性	講義および演習、グループワーク	介護の歴史や、その必要性について、インターネットで調べ、まとめる。	30
第 2 回 ／	社会保障制度と高齢者の暮らし	講義および演習、グループワーク	社会保障の概要について調べ、まとめる。	60
第 3 回 ／	介護保険制度と高齢者の暮らし	講義および演習、グループワーク	介護保険制度について調べ、高齢者の暮らしとの関係性を考え、まとめる。	60
第 4 回 ／	高齢者の暮らしを制度から考える	講義および演習、グループワーク	第 2 回目・3 回目のレポート学習を終えている事	60
第 5 回 ／	対人援助におけるコミュニケーションの技法 コミュニケーションの必要性・傾聴と共感	講義および演習、グループワーク	日常生活において、家族や友人等、人間関係で困った事や悩んだことの経験を各自でまとめておく。	60
第 6 回 ／	介護を必要とする人の理解 身体に障害を有する人の理解、認知症の人の理解	講義および演習、グループワーク	認知症の種類とそれぞれの症状について、各自で調べておく。	60
第 7 回 ／	視覚障害のある人の手引き歩行	講義および演習、グループワーク	視覚障害のある人が生活するとはどういう事かどのような環境が求められるかをまとめておく。	60
第 8 回 ／	関連職種との連携、チームケアの必要性	講義および演習、グループワーク	介護領域で関連する職種について、名称と主な業務について調べておく。	30
第 9 回 ／	基本的介護技法 1 移乗・移動の介護、車いすの基本的操作	講義および演習、グループワーク	車いすで学内を移動、その体験を通じて気づいたことや、介助者が配慮すべき点等をまとめる。	60
第 10 回 ／	基本的介護技法 2 衣類の着脱の介護	講義および演習、グループワーク	骨折やけがなどで通常行っている着替えができなくなったとき、自分ならどうするか（どうしてほしいか）まとめておく。	60
	ミニテスト			
第 11 回 ／	基本的介護技法 3 食事の介護方法	講義および演習、グループワーク	自身の食事に関するこだわりや食事習慣についてまとめておく。	60
	ミニテスト			
第 12 回 ／	基本的介護技法 4 排泄の介護	講義および演習、グループワーク	排泄に対する援助を必要とする人の気持ちや援助の留意点についてまとめる。	60
	ミニレポート			
第 13 回 ／	介護者への支援・虐待防止、介護を必要とする人の支援・まとめ	講義およびグループワーク	「虐待」についての事件や関連のある出来事について、各自で調べてまとめておく。（高齢者分野以外でもよい。）介護を必要とする人の具体的な支援を総括し、パワーポイントにまとめる準備をしておく。	60
第 14 回 ／	介護現場で働く人の心構えと求められるニーズ	講義および演習、グループワーク	介護現場で働く人の心構えを理解し、そこで働く者には、どのようなニーズが求められているかを理解する。	60
	ミニレポート			
第 15 回 ／	総括 介護概論を学んで福祉に求められる人として自己覚知を行う	講義および演習、グループワーク	介護概論を学び、自己覚知を行う。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授業科目区分		授業科目名（下段：英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目		暮らしの中の憲法 Constitution in Daily Life		2単位	必修	講義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	本科目は、憲法の規定する人権と統治機構の基本事項を理解した上で、憲法の歴史や憲法の制度の趣旨・目的・機能に関する諸々の学説を比較検討することを通して、様々な現実の憲法問題に対して、一定の判断を下せるような法的思考力を養うことを目的とする。							
キーワード	最高法規 基本的人権 国民主権と天皇象徴制 平和主義・戦争放棄 統治機構・地方自治		学修教育目標	本科目は教員による講義を中心とし、適宜、受講生との質疑・応答などの討論を盛り込むこととする。さらに、レポートの提出や授業での討論を通じて、受講生が憲法の考え方を応用・実践できるような思考様式を習得する。 また、この講義では憲法とは何かを考えながら、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理についての理解と基礎知識の獲得を目標に、憲法がかかえる今日の諸課題がどのようなものが存在するのかも国際・国内を越えて考えることができる。				
	授業科目の概要及び学修上の助言							
この講義では憲法とは何かを考え、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理について理解することができる。また日本国憲法の条文に深く刻まれた歴史に思いをはせながら、現在の諸問題にも一層の関心を持つことができる。また、講義ではできる限り新しい素材を吟味し現実在即したテーマを提示します。そのことで、憲法が個々の問題として主体的に身に付き考えることができます。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
実質的な講義が始まる前に、できる限り憲法前文を読んでおくこと。憲法条文についてはIT等を活用して自ら資料収集すること。講義の前には関連する条文を読んでおくこと、また常に現代の社会に目を向けるため、新聞やテレビ等の時事にも興味と関心を持つように心がけましょう。								
教科書				参考書・リザーブドブック				
授業毎に資料を配布する。				講義の際に必要な応じて紹介する。				
No.	学科教育目標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		法に基づく基本的人権を知る。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		福祉国家理念に基づく制約を知る。					○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	授業準備、課題、演習、試験などに主体的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	最高法規を理解し、社会の諸問題に関心をもち様々な課題や試験に取り組むことができる。					◎
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性	自分のルールややり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。					○
		④ 状況把握力	法治国家の一員としての責任ある行動がとれるよう人格形成ができる。					○
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	人権に沿った社会人としての自覚が持てる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	59						41	100
評価の指標	知識に関する評価	20							20	40
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価	20								20
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価	19							21	40
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
この講義を通じて、日本国憲法を知り、また日本国憲法が制定された背景を理解し、憲法の基礎知識や法的なものの考え方も身につけてほしいというのが本講義の目的です。また平和主義・裁判員制度・地方自治なども最新時事についての素養も含めてしっかりと理解していることが重要である。 各項目の理解度が 80%であること。					この講義を通じて、日本国憲法を知り、また日本国憲法が制定された背景を理解し、憲法の基礎知識や法的なものの考え方も身につけてほしいというのが本講義の目的です。また平和主義・裁判員制度・地方自治なども最新時事についての素養も含めてしっかりと理解していることが重要である。 各項目の理解度が 60%～80%であること。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	憲法を学ぶ ・ 憲法の意義、学び方 ・ 成績評価方法等	講義形式	憲法について予習すること	30
第 2 回 ／	国民主権と天皇象徴制 ・ 主権とは何か。 ・ 日本国憲法における象徴の意味	講義形式	国民主権の意義と天皇制についての予習すること	30
第 3 回 ／	国際協調主義 ・ 周辺諸国との領土問題 ・ 集団的自衛権	講義形式	国際協調主義について予習すること	30
第 4 回 ／	平和と憲法 ・ 憲法 9 条の平和主義 ・ 国際協調主義・・・ウクライナ侵攻など時事	講義形式	平和主義について予習すること	30
第 5 回 ／	憲法改正問題 ・ 憲法 9 条を中心とする憲法改正論議	講義形式	憲法改正問題について予習すること	30
第 6 回 ／	基本的人権の尊重 ・ 基本的人権に関する基本原則と分類 ・ 世界情勢からみた日本の基本的人権	講義形式	基本的人権の意味・意義について予習すること	30
第 7 回 ／	政治と憲法 ・ 政治のあり方（三権分立・議院内閣制等・国会） ・ 選挙制度（改正選挙法）	講義形式	三権分立・議院内閣制・選挙制度について予習すること	30
第 8 回 ／	税金と憲法 ・ 納税の義務と租税法主義	講義形式	納税の義務について予習すること	30
第 9 回 ／	社会保障と憲法 ・ 生存権的基本権（生活保護など）	講義形式	社会保障について予習すること	30
第 10 回 ／	報道と憲法 ・ 表現の自由・知る権利・報道の自由	講義形式	表現の自由・知る権利・報道の自由について予習すること	30
第 11 回 ／	新しい人権・・・プライバシーと憲法 ・ 個人のプライバシー権と個人情報保護法	講義形式	新しい人権・プライバシー権について予習すること	30
第 12 回 ／	刑事訴訟と憲法 ・ 奴隷的拘束からの自由と刑事被告人の権利	講義形式	刑事訴訟について予習すること	30
第 13 回 ／	裁判所と憲法 ・ 法令審査権と三審制 ・ 裁判員制度	講義形式	裁判所について予習すること	30
第 14 回 ／	地方自治法と憲法 ・ 地方自治制度と地方分権	講義形式	地方自治について予習すること	30
第 15 回 ／	まとめ（1） （第 1 回からの内容のまとめを行う）	講義形式	これまでの授業の内容について復習すること	30

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段：英名表記）		単 位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目		法と社会 Law and Society		2単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	人類がより善い世界を形成していくためには、現在さしあたり最終審級となっている各国家の主権者たる各国民が、実質的に高い民度を持つ市民から形作られることが必要である。法的素養はその民度を構成するものとして重要かつ不可欠な要素となっている。本科目はこの法的素養を涵養することを目的とする。							
キーワード	国家、主権、民主主義、法、憲法、人権、市民性	学修教育目標	法の本質、立法と民主主義の機序、主権者としての自覚、等々、シティズンシップに不可欠な最低限の法現象に対する理解および真の善き法の感覚とリーガルマインドの陶冶。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
人間の社会的動物（ゾーン・ポリティコン）という性質は、人間を動物から区別し、人間が野蛮さから距離をとりうることを示す表徴です。人間的な社会において真に善い法・規則・ルールとはどのようなものであるべきなのか、ということを常に念頭において取り組んでください。 （注記：当該授業担当教員は法学を専門とする者ではない。）								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
人間と社会に関する積極的な関心および探究意欲								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				（適宜指示する）				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		法的思考の技法およびその基礎となる教養の獲得					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	課題への積極的な取り組み					○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力	課題完成までの段階の確認					○
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	自身の思考物の言語による表現					○
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50		50					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		50		30					80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				20					20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
社会・国家における法の本質と現象をその具体的事例とともに深く把握し、それに基づき主権者として真の立法者たる十分な市民性の形成がなされている。					社会・国家における法の本質と現象を一般的に理解し、主権者としての自覚を伴う市民性の形成がなされている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 2 回 ／	法とは（一）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 3 回 ／	法とは（二）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 4 回 ／	近代法に至る歴史（一）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 5 回 ／	近代法に至る歴史（二）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 6 回 ／	民主主義について	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 7 回 ／	日本における近代法・法の分類と法体系	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 8 回 ／	憲法について	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 9 回 ／	社会運動・市民的不服従	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 10 回 ／	人権問題の事例（一）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 11 回 ／	人権問題の事例（二）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 12 回 ／	人権問題の事例（三）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 13 回 ／	人権問題の事例（四）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 14 回 ／	人権問題の事例（五）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第 15 回 ／	人権問題の事例（六）	講義	資料の検討、課題作成等	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期	
総合教養科目 基本教養科目		近代史の探究 Research in Modern History		2 単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	現代は世界各地で宗教紛争が起こり、異文化同士が衝突する時代である。近代という時代（16～19 世紀）は、現代の直前の時代としてきわめて重要な意味を持っている。近代の歴史とこれに続く現代の歴史を学ぶことは、今後の世界を生きていくうえで必要不可欠である。 以上のことをふまえ、この授業では、現代世界の成り立ちについて、近現代の歴史を学ぶことを通して、理解できるようになることを目的とする。								
	キーワード 異文化理解 宗教 グローバリズム ナショナリズム 文明の衝突	学修教育目標	近代の歴史のおおまかな流れを理解し、説明できるようになる。 現代の国際問題のニュースについて自分から関心・興味をもって調べ、理解を深めることができるようになる。						
授業科目の概要及び学修上の助言									
授業には、インターネット接続可能なノート PC、タブレット、スマートフォン等を持参すること。大きい画面のノート PC やタブレットの方が授業で使用する資料を確認しやすいのです。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
「西洋史の探究」「心性の歴史」「宗教と文化」と関連する。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
なし				なし					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。								
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		近代史に関する理解を土台にして、現代の世界情勢について自分なりの考え方を持つことができる。						
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自分なりに判断し、他者に流されず行動できる。						○
		② 働きかけ力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義・理由・内容等)を伝えることができる。						○
		③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。						○
		② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。						○
		③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。						○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。						◎
		② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。						◎
		③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。						○
		④ 状況把握力	自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。						○
		⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。						○
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている。						○
4. 倫理観		① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	41		45				14	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	21		14					2	37
	技能に関する評価								3	3
	応用力に関する評価	10		14					3	27
	チームワーク力に関する評価								3	3
	関心・意欲に関する評価	10		17					3	30
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
授業で学んだことをもとにして、現代の国際情勢に関するニュースや書籍等に自らアクセスし、それらの資料をもとにして、自分なりの考え方を深めることができるようになる。					授業で学んだことから、現代の国際情勢に関する自分なりの考え方を持つことができるようになる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 1. 現代と近代史の関係	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 2 回 ／	2. 冷戦とは何か	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 3 回 ／	3. 孤立国家としての日本	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 4 回 ／	4. アメリカの歴史と宗教	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 5 回 ／	5. 現在のアメリカの政治	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	30
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 6 回 ／	6. アメリカと日本の関係	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 7 回 ／	7. 多極化・多文明化する世界	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 8 回 ／	8. 「文明の衝突」説	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 9 回 ／	9. 現代世界と宗教	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 10 回 ／	10. 近代史のなかの日本とアジア①：明治・大正	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 11 回 ／	11. 現代史のなかの日本とアジア②：昭和・平成	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 12 回 ／	12. 近代史のなかの日本と西洋①：明治・大正	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 13 回 ／	13. 現代史のなかの日本と西洋②：昭和・平成	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 14 回 ／	14. 今後の日本と世界①：最近のニュースを例にして	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 15 回 ／	15. 今後の日本と世界②：最近のニュースを例にして	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期	
総合教養科目 基本教養科目		西洋史の探究 Research in Western History		2 単位	選 択	講 義	1 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学 修 教 育 目 的	人間は歴史や文化と切り離せない。西洋史の事例を中心に、人間・歴史・文化の関係について学ぶ。 1. 異文化、特に西洋文化の多様な側面の理解 2. 歴史的思考力の獲得 3. 西洋の歴史に関する教養を身につけること								
	キーワード 異文化理解 女性史 死の歴史	学修教育目標 1. 異文化、とくに西洋文化の一側面を理解できる。 2. 歴史的な思考力を身につけることができる。 3. 西洋の歴史や文化に関する教養を深めることができる。							
授業科目の概要及び学修上の助言									
教材を PDF 等の形式で配信するので、インターネット接続可能なノート PC、iPad、スマートフォン等を準備しておくこと。画面の大きい、ノート PC やタブレットをすすめる。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
「近代史の探究」「心性の歴史」「宗教と文化」に関連する。									
教 科 書				参考書・リザーブブック					
なし				なし					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。								
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		西洋の歴史・文化に関する知識を身につけることができる。 △						
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自分なりに判断し、他者に流されず行動できる。						○
		② 働きかけ力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義・理由・内容等)を伝えることができる。						△
		③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。						△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。						△
		② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。						△
		③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。						○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。						△
		② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。						△
		③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。						△
		④ 状況把握力	自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。						△
		⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。						△
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている。						△
4. 倫理観		① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41		30				29	100
評価 の 指標	知識に関する評価		11		10				4	25
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15		10				5	30
	チームワーク力に関する評価								10	10
	関心・意欲に関する評価		15		10				10	35
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
授業で獲得した西洋の歴史や文化に関する知識を土台にして、興味関心のある情報に自らアクセスし、さらに知識を深めることができるようになる。					授業を通して、今まで知らなかった西洋の歴史や文化に関する知識を身につけることができるようになる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション なぜ西洋の歴史を学ぶのか？	講義とディスカッション	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 2 回 ／	1. 女性の歴史 西洋中世の男と女①	講義とディスカッション	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 3 回 ／	西洋中世の男と女②	講義とディスカッション	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 4 回 ／	西洋中世・近世の夫婦のあり方①	講義とディスカッション	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 5 回 ／	西洋中世・近世の夫婦のあり方②	講義とディスカッション	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 6 回 ／	日本中世の男と女①	講義とディスカッション	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 7 回 ／	日本中世の男と女②	講義とディスカッション	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 8 回 ／	西洋と日本の比較①	講義とディスカッション	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 9 回 ／	2. 死の歴史 西洋中世の地獄のイメージ①	講義とディスカッション	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 10 回 ／	西洋中世の地獄のイメージ②	講義とディスカッション	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 11 回 ／	煉獄（れんごく）の誕生	講義とディスカッション	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 12 回 ／	西洋中世末の「死の文化」	講義とディスカッション	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 13 回 ／	日本中世の地獄のイメージ	講義とディスカッション	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 14 回 ／	西洋と日本の比較②	講義とディスカッション	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 15 回 ／	歴史を学ぶ楽しさと意味	講義とディスカッション	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期
総合教養科目 基本教養科目		暮らしと化学 Living and Chemistry		2 単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	日常生活の中で無意識に接する「化学」に焦点を当て、自然界に存在する化学反応と人間が作り出した物質の変化とを考察する。人類の発展を支える一方で環境破壊を起こす二面性を知り、検証する。現代の便利な食を支える化学物質を通じ、日本人の食のありかたも考察する。							
	キーワード 自然界の物質循環 日本人の食料と化学	学修教育目標 1. 基本的な化学反応式が書けるようになること。 2. 自然界の化学変化、特に光合成と呼吸の関係の理解すること。 3. 日本人の食と化学物質の関係の理解を目指す。						
授業科目の概要及び学修上の助言								
原則として講義形式で行う。必要に応じて演習を行う。基礎の部分の定着を図るために授業中に小テストを行う。高校で化学を履修していない学生も理解できるように基礎から行うが、指示通りに学修を積み上げて行くことが必要である。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
化学を扱う全ての科目の基礎となる。								
教 科 書				参 考 書 ・ リ ザ ー ブ ド ブ ッ ク				
必要に応じてレジュメを配布。				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 （ ※ 1 ）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		基本的な化学についての理解を深め、身の回りの化学に関する事象に興味、関心を持つことができる。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	問題意識を持って積極的に授業に参加できる。					◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力	授業への参加だけでなく、試験や課題に備えた授業外での学修ができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	与えられたテーマに対してどのように取り組めばよいのか理解できる。					◎
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	自然界での人間の振る舞いについて倫理観を持って考えることができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50	10	40					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	40	5	10						55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価	10	5	10						25
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				20					20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自然界での物質の循環や食糧生産における化学を理解し、自然界での人間のあり方について自分なりの考えを持つことができる。					化学の基本を理解し、普段の生活と関連付けることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス、化学の基礎① 授業の進め方、周期表の見方	講義	授業内容の復習	60
第 2 回 ／	化学の基礎② 電解質と非電解質	講義と演習	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 3 回 ／	化学の基礎③ 原子構造とイオン結合	講義と演習	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 4 回 ／	化学の基礎④ イオン結合と共有結合	講義と演習	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 5 回 ／	化学の基礎⑤ 電離式	講義と演習	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 6 回 ／	化学の基礎⑥ 酸とアルカリ	講義と演習	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 7 回 ／	化学の基礎⑦ 中和反応	講義と演習	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 8 回 ／	自然界の化学 光合成と呼吸、食物連鎖、生物濃縮	講義と演習	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 9 回 ／	食に関する DVD「食べ物の源をたどる」①	講義とDVDの視聴	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 10 回 ／	食に関する DVD「食べ物の源をたどる」②	講義とDVDの視聴	授業内容の復習と課題の作成	60
	小テスト、課題			
第 11 回 ／	化学変化と状態変化 化学変化と状態変化の違い、特に水の状態変化について学修する。	講義と演習	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 12 回 ／	人工の化学 人工的に合成された化学物質の功罪について学修する。	講義と演習	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 13 回 ／	身の回りの化学変化 身の回りで起きている化学変化について学修する。	講義と演習	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 14 回 ／	「溶ける」とは 電解質と非電解質における溶解のメカニズムの違いおよびペットボトル症候群について学修する。	講義と演習	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 15 回 ／	全体のまとめ	講義と演習	授業内容の復習と課題の作成	60
	小テスト			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目		わかる数学 Simple Mathematics		2単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	日常生活や就職活動で困らない数学の基礎を学ぶ。授業科目名は「わかる数学」だが、「わかる」と「できる」は別の次元である。目標として、「わかる」を超えて「できる」状態にすることを目指す。							
	キーワード	数学の基礎 「わかる」から「できる」へ	学修教育目標	1. 基本的な計算ができる。 2. 文章題に慣れ、自分の力で問題が解ける。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
授業は、1. 基本事項の説明 2. 演習 3. 解説 4. 小テスト の流れで進める。また、必要に応じて課題を出す。小テストの内容は次回の授業で解説することで、間違えた問題は授業終了後にもう一度やり直す学修習慣を身につけることが大切である。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
数式を扱う全ての科目の基礎となる。就職活動でも必ず必要な能力である。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
必要に応じてレジュメを配布。				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		社会に出るために必要な数学の素養を身につけることができる。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	問題意識を持って積極的に授業に参加できる。					◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力	授業への参加だけでなく、試験や課題に備えた授業外での学修ができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	どのように学修すればできるようになるか自分で見いだすことができる。					◎
		② 計画力	授業内容や小テストに合わせ、計画的に学修を進めることができる。					◎
		③ 創造力	新しい問題に自ら取り組むことができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50		50					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	40		20						60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価	10		20						30
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価			10						10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
応用的な問題にも挑戦することができ、就職試験の問題も自力で解くことができる。					授業で扱った内容について基本的な問題は自力で解ける。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンスと基礎力テスト （授業のガイダンスと現状把握）	講義と試験	授業で説明する課題に取り組む	60
第 2 回 ／	基礎力テストの返却と解説	講義	基礎力テストのやり直し	60
第 3 回 ／	素数について エラトステネスのふるい、素因数分解	講義と演習	基礎力テストのやり直し	60
第 4 回 ／	最大公約数、最小公倍数（1）　－倍数と約数の基本－ 計算方法の理解	講義と演習	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 5 回 ／	最大公約数、最小公倍数（2）　－倍数と約数を使う（初級）－ 文章題	講義と演習	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 6 回 ／	最大公約数、最小公倍数（3）－倍数と約数を使う（中級）－ 文章題	講義と演習	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 7 回 ／	計算の基礎（1）　－計算力強化（初級）－ 正負の数	講義と演習	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 8 回 ／	計算の基礎（2）　－計算力強化（中級）－ 文字式の表現と式の値	講義と演習	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 9 回 ／	方程式（1）　－等式の性質の理解－ 方程式の解き方	講義と演習	授業で配布したプリントの予習と復習 課題の解答	60
第 10 回 ／	方程式（2）　－文章を式に直す（初級）－ 文章題	講義と演習	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 11 回 ／	方程式（3）　－文章を式に直す（中級）－ 文章題	講義と演習	授業で配布したプリントの予習と復習 課題の解答	60
第 12 回 ／	方程式（4）　－文章を式に直す（上級）－ 文章題	講義と演習	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 13 回 ／	確率の基礎（1） －並べる順を考慮する数え方・顔ぶれに着目した数え方－ 順列・組み合わせ	講義と演習	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 14 回 ／	確率の基礎（2）　－運試しの数学－ 確率	講義と演習	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 15 回 ／	試験に向けての対策、レポート等の提出確認	講義と演習	授業で配布したプリントの予習と復習	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期
総合教養科目 基本教養科目		地球の環境 Geosystem Science		2 単位	選 択	講 義	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	地球を一つのシステムとしてとらえ、物質・エネルギーの移動を通して地球の環境が形成されていることを理解する。また、地球の姿を数値的に取り扱う方法についても学び、環境変動のタイムスケールについて学ぶ。解析手法として、ボックスモデルに基づいた環境因子解析の手法を解説する。プレートテクトニクスとプレュームテクトニクス、温室効果のしくみ、オゾン層の役割と形成・破壊のメカニズムなどを取り上げ、地球環境の理解を深めることを目的とする。							
	キーワード 地球システム プレートテクトニクス プレュームテクトニクス	学修教育目標 太陽系や地球の成り立ちを理解し説明できる。 地球を一つのシステムとして理解し、物質循環の時間スケールと空間スケールを理解し計算できる。 地球の内部構造について理解し、そこでの物質循環を理解し、説明できる。 地球の物質循環と環境変動との関わりについて説明できる。						
授業科目の概要及び学修上の助言								
地球と宇宙に関する基礎知識を学びながら、地球のこれまでとこれからを考える。 地球上で起きている様々な自然現象に興味・関心を持って欲しい。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
地球上で起きている様々な自然現象がニュースなどで取り上げられた時は、どのようなことが起きているのか、関心を持って理解するよう努めてほしい。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				書 名：地球大進化 第1集～第6集 著者名：NHK「地球大進化」プロジェクト 出版社：日本放送出版協会				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		様々な自然現象がシステムとしての地球の性質を背景に起きていることを理解し説明できる。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		自ら関心をもって学修することができる。				○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		なすべきことを的確に把握できる。				○
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		自分の意見をわかりやすく伝えることができる。				○
		② 傾聴力		相手の話を素直に聴き、異なる意見も理解することができる。				○
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		15				40	100
評価の 指標	知識に関する評価		40						10	50
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		5						5	10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15				25	40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
地球システムのリズムを理解して、様々な自然現象がどのような関係を持って起きているのかを適切な用語を使って説明できる。 地球 46 億年の姿と今後についてイメージできる。					地球システムの概念を理解して、適切な用語を使って現象を説明できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	イントロダクション ①環境とはなにか ②環境問題とはなにか ③地球の基礎知識	講義、演習	復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30
	演習・小レポート			
第 2 回 ／	地球システム（1）－太陽系の形成－ ①太陽系の惑星の特徴	講義、演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	演習・小レポート			
第 3 回 ／	地球システム（2）－地球の形成－ ①太陽系の形成 ②地球の形成史 ②大気の形成 ③温室効果	講義、演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	演習・小レポート			
第 4 回 ／	地球システム（3）－地球システム－ ①システムとはなにか ②地球システム	講義、演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	演習・小レポート			
第 5 回 ／	地球システム（4）－サブシステム間の物質移動－ ①ボックスモデル ②流入量と流出量	講義、演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	演習・小レポート			
第 6 回 ／	地球システム（5）－フィードバック－ ①正のフィードバック（暴走温室効果、全球凍結） ②負のフィードバック（雲アルベドフィードバック）	講義、演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	演習・小レポート			
第 7 回 ／	地球システムの物質循環－物質循環のタイムスケール－ ①動的平衡状態 ②平均滞留時間 ③地球内部を含んだ物質循環	講義、演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	演習・小レポート			
第 8 回 ／	全地球規模の物質循環（1） ①地球の内部構造 ②地球内部の状態	講義、演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	演習・小レポート			
第 9 回 ／	全地球規模の物質循環（2） －数万年以上のタイムスケールを持つ物質循環－ ①プレート ②プレートの動き	講義、演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	演習・小レポート			
第 10 回 ／	全地球規模の物質循環（3）－大陸移動－ ①プレートの動き ②プルームと大陸移動	講義、演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	演習・小レポート			
第 11 回 ／	全地球規模の物質循環（4）－大陸移動の証拠－ ①地球の磁場 ②古地磁気学 ③海洋底の地磁気縞状異常	講義、演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	演習・小レポート			
第 12 回 ／	気候変動（1） ①気温の変化と地球のリズム	講義、演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	演習・小レポート			
第 13 回 ／	気候変動（2） ①長期的な気候変動の状況 ②全地球規模の物質循環と気候変動	講義、演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	演習・小レポート			
第 14 回 ／	気候変動（3）大陸移動と気候変動 ①様々な気候変動の原因	講義、演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	演習・小レポート			
第 15 回 ／	地球は特別な星か？	講義、演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	演習・小レポート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目		茶道と文化 Tea Ceremony and Japanese Culture		2 単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	（１）裏千家茶道の点前を実習することにより、礼儀作法を習得します。人に対する思いやりや何事にも感謝する気持ちを身につけ、また会得した美しい所作や言葉遣いなどは、仕事や日常生活に直接役立っていきます。 （２）日本の風土に培われた芸術・宗教・哲学・社交を含む総合的な伝統文化である茶道の歴史や精神を学び、海外における日本文化の役割を再認識します。							
キーワード			学修教育目標					
	伝統文化 茶道 礼儀作法 思いやり 感謝の心			「初級」の資格の許状を申請できる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
日本の伝統文化である茶道を基礎から学び、必要な知識や技能の修得を目指す。日常生活に欠かせない礼儀作法や協調性、そして生活のルールやマナーを身につける実践の場である。授業で身につけた作法を実生活の中で生かしてほしい。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
学生生活・日々の生活を通して、思いやりや感謝の心を忘れないでほしい。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				書 名：裏千家 茶道 著者名：学校茶道教本編集委員会 出版社：今日庵				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		相手に対する思いやりの心や協調性を身につけることができる。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		日常生活でのルールやマナーを理解できる。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		感謝の心や物に動じない精神力を育む。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。					○
		② 働きかけ力	相手を納得させるために協力することの必然性を伝えることができる。					◎
		③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、行動できる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	自分を客観的に分析し、課題を解決しようとすることができる。					◎
		② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。					○
		③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。					○
		② 傾聴力	相手の気持ちを思いやり、意見をきくことができる。					◎
		③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。					○
		④ 状況把握力	自分のおかれている立場を正確に把握できる。					◎
		⑤ 規律性	社会人として必要な礼儀作法やマナーを身につけることができる。					◎
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。					○
4. 倫理観		① 倫理性	他人に対する尊敬の気持ちを常に持つことができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	5	20	20			5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	1	10				1	22
	技能に関する評価		10	1		10			1	22
	応用力に関する評価		10	1					1	12
	チームワークに関する評価		10	1					1	12
	関心・意欲に関する評価		10	1	10	10			1	32
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
茶道の基本精神「和敬清寂」を十分理解できる。 「盆略点前」を通しておもてなしの心を十分表現できる。					茶道の基本精神「和敬清寂」をほぼ理解できる。 「盆略点前」を通しておもてなしの心をほぼ表現できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	茶道と伝統文化について総論 ①学生への注意	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第 2 回 ／	客の作法について（茶・菓子）帛紗の説明 ①おじぎ ②立居振舞	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第 3 回 ／	基本的な茶道具の説明 ①帛紗の扱い方 ②呈茶	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第 4 回 ／	茶道の意義 ー茶道と日常生活ー ①棗・茶杓の清め方 ②呈茶	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第 5 回 ／	茶の精神 ー和敬清寂・利休七則ー ①茶筌・茶巾・茶碗の扱い方 ②呈茶	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第 6 回 ／	ビデオ鑑賞 「茶の湯」「お茶で豊かな心を」	講義	日常生活での学修内容の実践	20
第 7 回 ／	茶の歴史 ー茶の伝来から鎌倉時代ー ①割稽古総まとめ ②呈茶	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
	小テスト			
第 8 回 ／	レポート課題出題 茶の歴史 ー足利時代ー ①盆略点前 (1)	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第 9 回 ／	茶の歴史 ー利休と安土桃山時代ー ①盆略点前 (2)	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第 10 回 ／	レポート提出 ーレポート課題の解説ー 茶道の成立 ①盆略点前 (3)	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第 11 回 ／	現代の茶道 ①盆略点前 (4)	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第 12 回 ／	茶と禅 ①盆略点前 (5)	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第 13 回 ／	茶と季節観 ①盆略点前の総まとめ	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第 14 回 ／	総まとめ ー茶道と伝統文化ー ①茶会形式 ②盆略点前のまとめ	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第 15 回 ／	①実技試験（盆略点前）	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目		アロマテラピー（癒しの文化） Aromatherapy（Cultures of Healing）		2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	アロマテラピーは植物から得られる精油を用いた芳香療法のことでストレスケアに用いられる自然療法の一つです。使用方法としては芳香浴法やトリートメントなどがあり、香りの効果はもちろんタッチケアについても学び、体験していただきます。アロマテラピーを学ぶことで、心も身体も健康で人間関係や自然と調和のとれた生活を目指すものです。							
	キーワード	アロマテラピー 香り ストレスケア トリートメント	学修教育目標	かおりの提案が出来る。 日本アロマ環境協会アロマテラピー検定 1 級合格。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
この授業では「香り」を楽しむための知識を習得できます。実際に 1 授業あたり 2 ～ 3 種類の香りを体験していただきます。香りはイメージを思いうかべながら体験すると記憶に残りやすいです。香りを使って行いたいことなどアイデアを思いついたらすぐにメモし、わからないことがあれば教員に相談してください。 授業内容は計画表を参考に予習をして受講ください。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
アロマテラピーの事だけでなく、健康、栄養、環境問題も取り上げます。「公衆衛生学」の理解につながります。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：アロマテラピー検定公式テキスト 著者名： 出版社：世界文化社				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		ベビーアロマに関する知識を習得する。					△
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		クライアントに適したアロマテラピーの選択を行える。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。					△
		② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。					△
		③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。					△
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	クライアントの無言の訴えに素早く気づく。					○
		② 計画力	不調を訴える人に対して香りの提案ができる					◎
		③ 創造力	香りを言語化し表現できる					◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。					△
		② 傾聴力	クライアントの希望をとらえることができる					◎
		③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。					△
		④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。					○
		⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。					△
		⑥ ストレスコントロール力	自他のケアを行い、ストレスコントロール力をつける					◎
4. 倫理観		① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動できる力をつける。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			55	45						100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		35	20						55
	技能に関する評価		5							5
	応用力に関する評価		5	10						15
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10	15						25
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
日本アロマ環境協会 アロマセラピー検定 1 級合格					かおりの提案が出来る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	アロマセラピーの基礎	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 8～15 ページ	15
第 2 回 ／	アロマセラピーの利用法	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 32～54 ページ	15
第 3 回 ／	精油について（1） 役割と作用	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 16～18 ページ	15
第 4 回 ／	精油について（2） 抽出方法	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 19～21 ページ	15
第 5 回 ／	精油と環境の深い関係、アロマセラピーの安全性	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 24～31	15
第 6 回 ／	アロマセラピーの歴史（1） ー先史時代～中世ー	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 75～78 ページ	15
第 7 回 ／	アロマセラピーの歴史（2） ー近世～現代ー	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 79～86 ページ	15
第 8 回 ／	精油の作用機序（メカニズム）	講義 第 1 回小テスト	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 56～60 ページ 小テスト範囲 テキスト 8～54、75～86 ページ	90
	第 1 回 小テスト			
第 9 回 ／	健康学 1 ー睡眠、ストレスー	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 61～65 ページ	15
第 10 回 ／	健康学 2 ー女性ホルモン、スキンケアー	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 66～74 ページ	15
第 11 回 ／	アロマセラピーに関する法律	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 87～92 ページ	15
第 12 回 ／	日本アロマ環境協会	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 130～136 ページ	15
第 13 回 ／	最新のアロマセラピー研究について	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 137～141 ページ	15
第 14 回 ／	第 2 回 小テスト	講義 第 2 回 小テスト	小テスト範囲 テキスト 56～74、87～92	60
第 15 回 ／	総復習 検定試験対策	講義	苦手な箇所を抜き出して質問資料を作成しておくこと	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必修区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 キャリア形成科目	アセンブリ・アワー Assembly Hour	4 単位	選 択	講 義	1 年次・ 2 年次	春学期・ 秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	【1年次】 一年間を通して、高校生活から大学生活への円滑な移行を行う。 学生一人ひとりが大学で学ぶ意味を知り、目標を持ち、学ぶことに挑戦するモチベーションを高め、学生生活を主体的に取り組むことができる。 自身の学生生活および大学での学びについて振り返り、成長につなげる。 【2年次】 進路選択をふまえ、学生生活の充実を目指す。 学生生活において、主体的な取り組み（体験活動）を実践し、自身が取り組んだ活動について振り返り、成長を実感することができる。 進路選択について考え、就職活動への動機づけを行う。		
キーワード	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="128 647 795 928"> 大学での学び、高大接続、学生生活のスキル、主体性、進路選択、人間関係 </td> <td data-bbox="795 647 2011 928"> 学修教育目標 【1年次】 ・学部・学科の教育目的を理解し、自身が大学で学ぶ意味、自らの学修目標を明確にすることができる。 ・大学で学ぶための基礎的スキルや、大学生活に必要な礼儀・マナーを理解して、行動することができる。 ・自身の学生生活および大学での学びを振り返り、成長することができる 【2年次】 ・進路選択を踏まえ、身につける資質・能力を想定することができる。 ・自身が定めた課題に主体的に取り組む、その取り組みを振り返ることで成長することができる。 ・活動を円滑に行うために必要な人間関係を構築することができる。 </td> </tr> </table>	大学での学び、高大接続、学生生活のスキル、主体性、進路選択、人間関係	学修教育目標 【1年次】 ・学部・学科の教育目的を理解し、自身が大学で学ぶ意味、自らの学修目標を明確にすることができる。 ・大学で学ぶための基礎的スキルや、大学生活に必要な礼儀・マナーを理解して、行動することができる。 ・自身の学生生活および大学での学びを振り返り、成長することができる 【2年次】 ・進路選択を踏まえ、身につける資質・能力を想定することができる。 ・自身が定めた課題に主体的に取り組む、その取り組みを振り返ることで成長することができる。 ・活動を円滑に行うために必要な人間関係を構築することができる。
大学での学び、高大接続、学生生活のスキル、主体性、進路選択、人間関係	学修教育目標 【1年次】 ・学部・学科の教育目的を理解し、自身が大学で学ぶ意味、自らの学修目標を明確にすることができる。 ・大学で学ぶための基礎的スキルや、大学生活に必要な礼儀・マナーを理解して、行動することができる。 ・自身の学生生活および大学での学びを振り返り、成長することができる 【2年次】 ・進路選択を踏まえ、身につける資質・能力を想定することができる。 ・自身が定めた課題に主体的に取り組む、その取り組みを振り返ることで成長することができる。 ・活動を円滑に行うために必要な人間関係を構築することができる。		

授業科目の概要及び学修上の助言

大学生活に必要なスキル、将来の進路選択に必要な知識・スキル、社会で活動するために必要なスキル等を身に付ける。
欠席した回の内容については、必ず担当アドバイザーに確認をすること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

全ての科目の学修に必要な基礎的スキルを身に付ける。

教科書	参考書・リザーブドブック
書 名：大学生 学びのハンドブック 編 者：世界思想社編集部 出版社：世界思想社	資料を適宜配付する。

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	礼儀やマナーの必要性を理解して行動することができる。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	学びの基礎となるスキル身に付け、活用することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標(※2)	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。	○
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。	◎
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。	◎

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合 計
		総 合 評 価 割 合								
評 価 の 指 標	知識に関する評価									
	技能に関する評価			学則第 22 条 1 項(2)認定評価 (R もしくは E) による評価						
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自らの学修目的を明確にし、将来に向けて計画的に行動することができる。					自らの学修目的を明確にし、将来に向けた計画を立てることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回	【1 年次】 （春学期） 大学での学び方（1）卒業に向けて必要なことを知る （秋学期） 学科別プログラム（1）学科の学びについて知り、学ぶ意味の理解、学ぶ目標の設定、学びのモチベーションを高めることにつなげる①	講義法	資料の収集と整理	30
	【2 年次】 （春学期） オリエンテーション ・アセンブリ・アワーについて ・履修指導 ・2024 年度以降の授業・成績評価等の取扱いについて （秋学期） オリエンテーション ・秋学期のアセンブリ・アワーについて ・秋学期履修指導			
／	振り返りシートの点検と観察			
第 2 回	【1 年次】 （春学期） 学生生活について（1）キャンパスマナーを理解し、守る （秋学期） 学科別プログラム（2）学科の学びについて知り、学ぶ意味の理解、学ぶ目標の設定、学びのモチベーションを高めることにつなげる②	講義法	資料の収集と整理	30
	【2 年次】 （春学期） 社会・キャリアを知る（1）「スタートアップセミナー」 （秋学期） 社会・キャリアを知る（7）「履歴書・エントリーシート作成セミナー①」（自己分析・自己 PR）			
／	振り返りシートの点検と観察			
第 3 回	【1 年次】 （春学期） 学生生活について（2）交流を深める（※） （秋学期） 学科別プログラム（3）学科の学びについて知り、学ぶ意味の理解、学ぶ目標の設定、学びのモチベーションを高めることにつなげる③	講義法 ※実技含む	資料の収集と整理	30
	【2 年次】 （春学期） 社会・キャリアを知る（2）「インターンシップ説明会」 （秋学期） 社会・キャリアを知る（8）「履歴書・エントリーシート作成セミナー②」（志望動機・学チカ・まとめ）			
／	振り返りシートの点検と観察			
第 4 回	【1 年次】 （春学期） 大学で学ぶ意味を考える（1）PROG テストの解説 （秋学期） 学科別プログラム（4）学科の学びについて知り、学ぶ意味の理解、学ぶ目標の設定、学びのモチベーションを高めることにつなげる④	講義法	資料の収集と整理	30
	【2 年次】 （春学期） 社会・キャリアを知る（3）「社会人基礎力・ジェネリックスキル育成セミナー」 （秋学期） 社会・キャリアを知る（9）「業界・業種研究セミナー」			
／	振り返りシートの点検と観察			
第 5 回	【1 年次】 （春学期） 大学での学び方（2）授業の受け方（ノートの取り方） （秋学期） 学科別プログラム（5）学科の学びについて知り、学ぶ意味の理解、学ぶ目標の設定、学びのモチベーションを高めることにつなげる⑤	講義法	資料の収集と整理	30
	【2 年次】 （春学期） 社会・キャリアを知る（4）「社会人としてのビジネスマナーセミナー」 （秋学期） 社会・キャリアを知る（10）「先輩からのメッセージ」			
／	振り返りシートの点検と観察			

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第6回 ／	【1 年次】 (春学期) 大学で学ぶ意味を考える（2）学ぶ意味、学ぶ目標を考える (秋学期) 学内プログラムについて 大学で設定されているプログラムや活動、資格、免許等について紹介し、学びのモチベーションを高めることにつなげる 【2 年次】 (春学期) 社会・キャリアを知る（5）「面接対策セミナー」 (秋学期) ゼミに関するガイダンス ・基礎ゼミⅠ・Ⅱガイダンス ・研究室訪問について	講義法	資料の収集と整理	30
	振り返りシートの点検と観察			
第7回 ／	【1 年次】 (春学期) 大学での学び方（3） 課題（レポート）の作成、図書館の使い方、研究倫理について (秋学期) 就職サポートセミナー「社会人になるまでの大学生活の過ごし方」セミナー 【2 年次】 (春学期) 社会・キャリアを知る（6）「金融教育について」 (秋学期) 社会・キャリアを知る（11）「職務適性テスト」	講義法	資料の収集と整理	30
	振り返りシートの点検と観察			
第8回 ／	【1 年次】 (春学期) 大学で学ぶ意味を考える（3）いつ、何をするか考える（グループワーク） (秋学期) 大学で学ぶ意味、目標を確認する 学生生活を充実させるための4年間の過ごし方を考える 【2 年次】 (春学期) まとめ ・研究倫理に関する事項 ・春学期期末試験に向けての確認など (秋学期) まとめ ・2年次の振り返り ・基礎ゼミⅠ・Ⅱについて ・3年次に向けて	講義法	資料の収集と整理	30
	振り返りシートの点検と観察			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期
総合教養科目 キャリア形成科目		ボランティア実習 Volunteer Training		2 単位	選 択	実 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学 修 教 育 目 的	ボランティア実習は、学生自身がボランティア活動を通して社会と関わる中で、積極的に福祉活動に従事し、様々な福祉問題に前向きに取り組もうとするボランティア精神を身につけることを目的とする。							
	キ ー ワ ー ド	ボランティア	学 修 教 育 目 標	ボランティア活動に参加し、ボランティアについて理解することができる。 社会での活動を通じて、大学で学ぶ専門的な知識や技術をより実践的に修得し、社会人基礎力におけるそれぞれの能力要素を伸ばすことができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
ボランティア活動に参加する。安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持って活動に参加し、責任をもってやり遂げること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
特になし。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		責任を持ってやり遂げることができる。					◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		さまざまな問題に対し、解決方法を考えて取り組むことができる。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自ら行動することができる。					◎
		② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。					○
		③ 実行力	目標を設定して行動することができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。					△
		② 計画力	実行計画をたてることができる。					△
		③ 創造力	解決方法を見つけることができる。					△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。					○
		② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。					◎
		③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。					◎
		④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。					○
		⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。					○
		⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。					○
4. 倫理観		① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合								
評 価 の 指 標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習先の状況を理解して適切な行動をとることができる。					実習先で適切な行動をとることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	事前指導（オリエンテーション）	座学	実習先へボランティア実習の受け入れについて依頼する	60
第 2 回 ／	実習（1）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 3 回 ／	実習（2）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 4 回 ／	実習（3）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 5 回 ／	実習（4）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 6 回 ／	実習（5）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 7 回 ／	実習（6）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 8 回 ／	実習（7）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 9 回 ／	実習（8）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 10 回 ／	実習（9）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 11 回 ／	実習（10）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 12 回 ／	実習（11）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 13 回 ／	実習（12）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 14 回 ／	実習（13）（実習先での活動） 総実習時間：45 時間	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 15 回 ／	事後指導	座学	事後レポートの作成、活動日誌のまとめ	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期
総合教養科目 キャリア形成科目		インターンシップ（学校） Internship（School）		2 単位	選 択	実 習	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	学校現場での就業体験により、卒業後を見据えた将来像をより明確にすることができる。							
	キーワード 就業体験 学校	学修教育目標 教育現場の実際を経験し、取り組まなくてはならない課題を明確にすることができる。 教育現場で必要とされる社会人基礎力を身に付ける。						
授業科目の概要及び学修上の助言								
高等学校・中学校・小学校・幼稚園・保育所等での就業体験を行う。 安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持ち、教育する側に立っているという自覚をもって参加すること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
実習先の特性をよく理解しておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		実習先でふさわしい態度・行動をとることができる。○					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		実習先での課題を明確にし解決策を導くことができる。◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自ら行動することができる。					◎
		② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。					◎
		③ 実行力	目標を設定して行動することができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。					◎
		② 計画力	実行計画をたてることができる。					○
		③ 創造力	解決方法を見つけることができる。					◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。					◎
		② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。					◎
		③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。					◎
		④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。					○
		⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。					○
		⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。					◎
4. 倫理観		① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合								
評 価 の 指 標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習先の状況を理解して、積極的に課題解決に取り組むことができる。					実習先の状況を把握して、ふさわしい行動をとることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	詳細は各インターンシップのオリエンテーション等で説明する。			
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				
第 15 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期
総合教養科目 キャリア形成科目		インターンシップ（企業） Internship (Business Enterprise)		2 単位	選 択	実 習	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	企業等での就業体験を行い、明確な職業意識と倫理観をもった職業人の育成と学外を含めた幅広い人間関係の醸成を図る。							
	就業体験 企業	学修教育目標	企業等の実際を経験し、取り組まなくてはならない課題を明確にすることができる。 社会で必要とされる社会人基礎力を身に付ける。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
企業での就業体験に参加する。 安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持ち、自覚をもって参加すること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
実習先の特性をよく理解しておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		実習先でふさわしい態度・行動をとることができる。○					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		実習先での課題を明確にし解決策を導くことができる。◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自ら行動することができる。◎					
		② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。◎					
		③ 実行力	目標を設定して行動することができる。○					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。◎					
		② 計画力	実行計画をたてることができる。○					
		③ 創造力	解決方法を見つけることができる。◎					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。◎					
		② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。◎					
		③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。◎					
		④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。○					
		⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。○					
		⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。◎					
4. 倫理観		① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。◎					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合								
評 価 の 指 標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習先の状況を理解して、積極的に課題解決に取り組むことができる。					実習先の状況を把握して、ふさわしい行動をとることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	詳細は各インターンシップのオリエンテーション等で説明する。			
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				
第 15 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期
総合教養科目 キャリア形成科目		インターンシップ（コーオプ） Internship（Part-time Job）		2 単位	選 択	実 習	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	自己の職業適性を考え卒業後の職業選択の一助とするために、職種・業種を考慮に入れて就業先を選択し、実習を行う。							
	キーワード 就業体験 コーオプ	学修教育目標	自己の将来を見据えた職業選択ができる。 社会で必要とされる社会人基礎力を身に付ける。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
自己の職業適性を考え卒業後の職業選択の一助とするために、職種・業種を考慮に入れて就業先を選択し、実習を行う。 安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持ち、就労に対する対価を受け取っているという自覚をもって参加すること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
実習先の特性をよく理解しておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		実習先でふさわしい態度・行動をとることができる。○					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		実習先での課題を明確にし解決策を導くことができる。◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自ら行動することができる。					◎
		② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。					◎
		③ 実行力	目標を設定して行動することができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。					◎
		② 計画力	実行計画をたてることができる。					○
		③ 創造力	解決方法を見つけることができる。					◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。					◎
		② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。					◎
		③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。					◎
		④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。					○
		⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。					○
		⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。					◎
4. 倫理観		① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合										
評 価 の 指 標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習先の状況を理解して、積極的に課題解決に取り組むことができる。					実習先の状況を把握して、ふさわしい行動をとることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	詳細は各インターンシップのオリエンテーション等で説明する。			
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				
第 15 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。